

大阪医科大学学報

第96号 平成25年5月
(インターネット版)



春の山野草 (カラスノエンドウ・スマイレ)

◆目

平成25年度入学宣誓式	2
名誉教授称号授与	4
学位記授与式	5
定年退職のご挨拶	8
新任教授紹介	12
受賞等について	12
平成25年度科学研究費助成事業交付内定について	13
研究助成金等について	16
中山国際医学医療交流センター	17
平成25年度事業計画と予算の概要	18
病院看護部	26
看護学部	26
学内行事	28
歴史資料館	31
市民公開講座	32

◆次◆

寄付金報告	33
主要会議報告	35
医療総合研修センター	40
大学安全対策室	42
計報	42
医療安全対策室	43
感染対策室	46
保健管理室からのお知らせ	47
入学試験・国家試験状況	48
平成24年度病院患者動態	48
平成25年度LDセンター活動予定	49
行事日程	50
俳句	50
医学フォーラム	51
大阪医科大学に「高山ニヤ近」が誕生しました。	52

平成25年度入学宣誓式

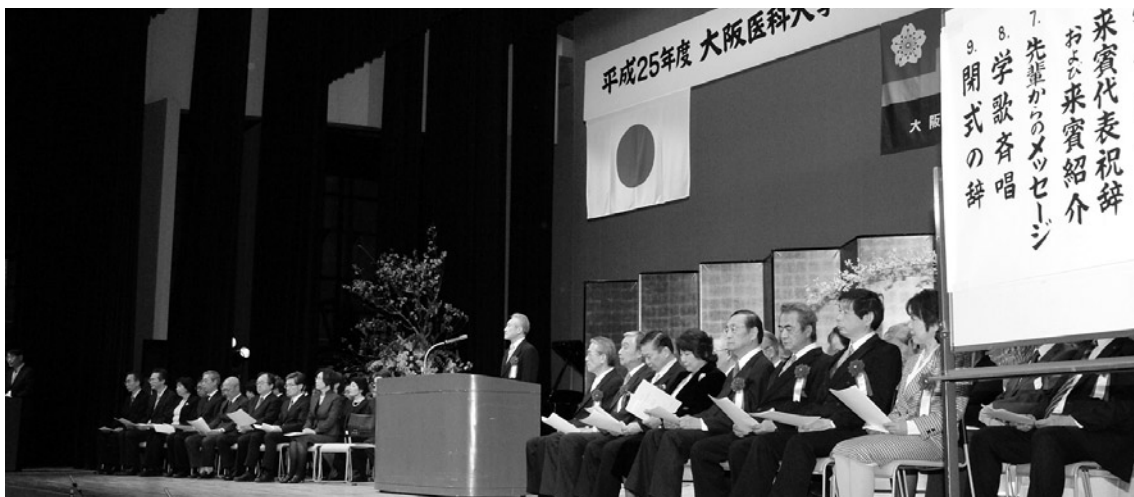
平成25年度入学宣誓式

医学部・看護学部

日時：平成25年4月3日（水）14：00～

場所：高槻現代劇場 大ホール（市民会館）

入学生：医学部医学科 112名 看護学部看護学科 92名



■平成25年度 大阪医科大学 入学式 式辞

学長 竹中 洋

平成25年度大阪医科大学新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご家族の皆様にもご子息ご息女の御入学を心よりお慶びを申し上げます。また、本日の入学に御列席いただいております関西医科大学山下敏夫学長先生、大阪薬科大学藤田芳一学長先生はじめご来賓の皆様へ教職員を代表して御礼申し上げます。

医学部入学生の皆さんはこれから6年間医学の勉学に勤しむことになります。医学・医療の発展は生命科学の進歩とともに凄まじい展開を見せています。再生医学はその最たるものであります。私が医学部に入学した時代はワトソン・クリックによってDNAやRNAが解明された時でした。今、ヒトの遺伝子配列から病気が予想される時代を迎えています。しかし、医学の基本的知識である解剖学や生理学の意義が消え去った訳ではありません。皆さんは、本日を持って膨大な科学的知識を理解しなければならないスタートラインにたたれたことになります。

看護学部の入学生の皆さん、貴方方を迎えて大阪医科大学看護学部は4年生までの全ての学年が揃ったことになります。看護学は我が国では学問として新しい分野です。しかし、急速に進む高齢社会では看護学の重要性は大変大きいものと期待をされています。教員の皆さんと一緒に、先輩と協力して大阪医科大学に新しい看護学の伝統を築いて頂きたいと思えます。

さて、大阪医科大学は昭和2年に、5年制の高等医学専門学校として誕生した、西日本で最も古い私立大学医学部であります。当時の我が国は昭和の大恐慌で、多くの国民が、外国に職と生活の糧を求めて移住しました。これら在留邦人に我が国の医療を提供することが建学時の目的の1つであったと伝えられています。海外で医療を実践する使命は、現在では「国際化」や「海外交流」として、我が国の大

学の大きな責務と考えられています。入学生の皆さんは、本学に設けられている「中山国際医学医療交流センター」を通して見聞を広げて頂きたいと思います。平成22年の看護学部設置により、大阪医科大学は医療系複合大学に変わりました。都市型医療系大学としてチーム医療の原点をしっかりと見極めた教育・研究活動を目指しています。入学生の皆さんは「医看融合教育」と言う新しい教育科目に触れると思います。学部学生のときから医学と看護学の専門性と守備範囲を確認することは、皆さんの将来にとって有意義と考えています。

最後に入学式に際して皆さんにお願いがあります。両学部とも厳しい競争に打ち勝つての入学です。しかし、皆さんの今日からの目的は、医師として看護師として日本の未来を支えて行くことに変わります。入学に安心することなく、慢心せず勉学に励んで下さい。高度医療人を育成することが目的の本学の教育には、高校の教育の様に予備校や塾はありません。日々の積み重ねや自学自習の精神が無ければ、目的である医師や看護師の資格を修得することは難しいと思います。同時に、医療職は人格の魅力に裏付けされた職種でもあります。クラブ活動などを通して友を作り、体力を付け、人格を陶冶し、多くの人生経験を重ねて頂きたいと思います。

これをもって平成25年度大阪医科大学入学生の学長式辞と致します。



大学院医学研究科



日時：平成25年4月2日(火) 15:00～
場所：別館3階 大学院多目的講義室
入学生：52名

■平成25年度 大学院医学研究科 入学式 式辞

学長 竹中 洋

大阪医科大学大学院医学研究科にご入学の皆さん、おめでとうございます。
本研究科は昭和34年に文部科学省の認可を受け、以来、本学で博士(医学)称号を授与してきました。それまで大阪医科大学は博士学位(医学)を与える権限はなく、医学博士号を取得したい本学若手教員や本学を卒業した医師は京都大学や大阪大学で論文博士の道を選択されていました。今年、50年ぶりに看護学研究科設置準備を行っています。文科省から認可を受けることが出来れば、大阪医科大学大学院には来春から医学研究科と看護学研究科の二つの博士課程が存在することになります。多分、貴方たちは医学研究科単独の最後の入学生となられるでしょう。

平成25年度入学宣誓式 名誉教授称号授与

研究科設置の目的は、高度医療技術の教育を行うことでもあります。本質的には医学研究を行い、また後輩に指導できる人たちを育成することにあります。従って皆さんは将来の大阪医科大学の研究と教育を担う候補生であります。ここで言う候補生とは未だ医学博士を習得していないことと、将来の職場が大阪医科大学と限っていないからです。

医学研究科は既にご承知のように、系は医学一つです。コースは臨床と基礎医学教室が共同で運用されることが原則になっています。しかし、必ずしも研究内容の情報公開は万全ではありません。今後、教室や講座の枠を超え、本学に集う若手研究者の研究課題を共有する仕組みが必要と考えています。昨年初めて本学のシーズ集を公募致しました。5月には学内公示に踏み切る予定です。多くの研究者が研究意識と方法を共有され、多角的な繋がりのある研究が展開されることを願っています。特に産官学連携による大学の知財を社会還元することは我が国の基本的科学政策でもあり、絶えずその意識を持ってください。



一方で研究に対する倫理観の育成と利益相反の考えは、研究を始めるにあたって、社会人として不可欠の要素であります。公明、公平な考えを、研究プラン作成や情報収集、データ解析の際に忘れないで頂きたいと思います。昨今報道されているデータ捏造が、研究者の心に棲む功名心や1つの虚偽から始まっていることを重く受け止めたいと考えています。

最後に、皆さんはどうぞ悔いの無い、希望に満ちた研究生生活をお送り下さい。我々教員は心から皆さんを応援し、指導し、成果を示したいと考えています。

名誉・功労教授称号授与

平成25年4月1日（月）学長室において、3月末日をもって定年退職されました河野公一先生、芝山雄老先生、吉田龍太郎先生に名誉教授の称号が、また、近藤敬一郎先生、出口寛文先生に功労教授の称号が授与されました。



平成24年度 第Ⅱ回 学位記授与式

日 時： 平成25年3月29日（金）15：00～
 場 所： 別館1階講堂（階段教室）及び3階大学院多目的講義室
 大学院医学研究科修了者（甲） …… 21名
 論文提出者（乙） …………… 4名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第916号	稲富 直	Antenatal exposure to <i>Ureaplasma</i> species exacerbates bronchopulmonary dysplasia synergistically with subsequent prolonged mechanical ventilation in preterm infants (早産児におけるUreaplasma子宮内感染は長期的人工換気により相乗的に慢性肺疾患を増悪させる)
甲第917号	井元 章	Neural invasion induces cachexia via astrocytic activation of neural route in pancreatic cancer (膵癌の神経浸潤は脊髄のアストロサイト活性を介して悪液質を促進する)
甲第918号	大江 恵	チタンプレート及び生体吸収性骨接合プレートを用いた力学的剛性の比較検討 (A comparison of mechanical stiffness of titanium and biodegradable osteofixation systems)
甲第919号	鎌田 美佳	Expression and epigenetic change of the AR and FSHR genes in the granulosa cells of endometriosis patients (子宮内膜症の顆粒膜細胞におけるFSH受容体発現とアンドロゲン受容体プロモーター領域のメチル化解析)
甲第920号	喜多村 泰博	Urinary Monitoring of Exposure to Yttrium, Scandium, and Europium in Male Wistar Rats (希土類元素暴露ラットの尿を用いた生物学的モニタリングに関する研究)

学位記授与式

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第921号	下山雄一郎	Perioperative risk factors for deep vein thrombosis after total hip arthroplasty or total knee arthroplasty (下肢人工関節置換術後における深部静脈血栓症の発症因子の検討)
甲第922号	杉浦裕美子	Characteristics of community-living elderly people with a slight decline in higher-level functional capacity (生活機能の軽度低下を有する地域在住高齢者の特徴)
甲第923号	孫 偉	Gefitinib enhances the efficacy of photodynamic therapy using 5-aminolevulinic acid in malignant brain tumor cells (Gefitinibによる悪性脳腫瘍細胞における5アミノレブリン酸光線力学療法の増強効果)
甲第924号	高原 健	Human prostate cancer xenografts in <i>lit/lit</i> mice exhibit reduced growth and androgen-independent progression (<i>lit/lit</i> マウスにおいて前立腺癌細胞皮下移植腫瘍のホルモン依存性、非依存性発育は抑制される)
甲第925号	寺本 邦洋	Temporal changes in echocardiographic findings in cardiac and non-cardiac sarcoidosis patients (サルコイドーシスの心臓病変を認める患者と認めない患者における心臓超音波検査所見の経時的推移の比較)
甲第926号	戸成 匡宏	Blocking Endothelin-B Receptors Rescues Retinal Ganglion Cells from Optic Nerve Injury through Suppression of Neuroinflammation (ETB受容体拮抗剤は、炎症抑制を介し、視神経傷害による網膜神経節細胞死を抑制する)
甲第927号	中山 紳	Longitudinal relationships between stages of changes in the transtheoretical model and annual data changes in mandatory routine health checkups of university faculty (大学職員を対象とした行動変容ステージと特定健康診査との縦断的な関連)
甲第928号	藤井 基嗣	Pathological Factors related to Lymph Node Metastasis of Submucosally Invasive Gastric Cancer: Criteria for Additional Gastrectomy after Endoscopic Resection (胃SM癌のリンパ節転移に関する病理学的因子の研究 -胃SM癌の内視鏡的切除後における外科的追加胃切除の病理学的適応基準の確立-)
甲第929号	藤阪 智弘	Angiotensin II promotes aortic valve thickening independent of elevated blood pressure in apolipoprotein-E deficient mice (アンジオテンシンIIはアポE欠損マウスにおいて血圧上昇に非依存的に大動脈弁の肥厚を促進する)
甲第930号	藤田 修一	Atrial natriuretic peptide exerts protective action against angiotensin II-induced cardiac remodeling by attenuating inflammation via endothelin-1/ endothelin receptor A cascade (心房性ナトリウム利尿ペプチドはエンドセリン-1/エンドセリンA受容体を介する炎症カスケードの活性化を抑制することによりアンジオテンシンIIによる心臓リモデリングに対して保護的に働く)
甲第931号	藤原 聡枝	GPR30 regulates the EGFR-Akt cascade and predicts lower survival in patients with ovarian cancer (GPR30は、卵巣癌においてEGFR-Akt経路を介し予後不良因子となる)
甲第932号	發知 淳子	Plaque-stabilizing effect of angiotensin-converting enzyme inhibitor and/or angiotensin receptor blocker in a rabbit plaque model (ウサギプラークモデルにおけるアンジオテンシン変換酵素阻害薬およびアンジオテンシン受容体拮抗薬の単剤および併用使用によるプラーク安定化効果)

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第933号	鱒 真介	Chymase inhibitor ameliorates hepatic steatosis and fibrosis on established non-alcoholic steatohepatitis in hamsters fed a methionine- and choline-deficient diet (メチオニン・コリン欠損食誘発性ハムスター非アルコール性脂肪肝炎モデルにおける脂肪肝と肝線維化に対するキマーゼ阻害薬の治療効果)
甲第934号	宮崎信一郎	The action site of the synthetic kainoid (2 <i>S</i> , 3 <i>R</i> , 4 <i>R</i>)-3-carboxymethyl-4-(4-methylphenylthio)pyrrolidine-2-carboxylic acid (PSPA-4), an analogue of Japanese mushroom poison acromelic acid, for allodynia (tactile pain) (アクロメリン酸誘導体PSPA-4のアロディニアに対する作用部位の検討)
甲第935号	横山 和武	<i>Apoptotic Speck Protein-Like (ASCL)</i> is hypermethylated in hepatocellular carcinoma and chronic liver diseases (肝癌、肝炎組織における <i>Apoptotic Speck Protein-Like (ASCL)</i> 遺伝子のメチル化について)
甲第936号	吉川 信彦	Sivelestat sodium hydrate reduces radiation-induced lung injury in mice by inhibiting neutrophil elastase (シベレスタットナトリウム水和物は好中球エラスターゼを阻害することでマウス肺における放射線肺臓炎を軽減する)

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第1108号	中島世市郎	Effect of Prosthetic Mandibular Advancement in Patients with Obstructive Sleep Apnea (閉塞型睡眠時呼吸障害患者に対するProsthetic Mandibular Advancementの効果について)
乙第1109号	田中 克子	1型糖尿病女性が妊娠・出産に臨むための教育プログラムの開発と検証 (Development and Verification of an Education Program for Pregnancy and Delivery in Women with type 1 Diabetes Mellitus)
乙第1110号	平山 隆則	Detection of dengue virus genome in urine by real-time reverse transcriptase PCR: a laboratory diagnostic method useful after disappearance of the genome in serum (尿中デングウイルス遺伝子のリアルタイムRT-PCRによる検出：血中ウイルス消失後の有用な検査診断法)
乙第1111号	岡本 純典	人工膝関節全置換術前後の下肢アライメントと足底圧分布の変化 (Changes in foot pressure distribution and lower limb alignment before and after total knee arthroplasty)



定年退職にあたって

河野 公一 (衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ教室)

北摂の山々にも春の訪れを感じる季節になりましたが、大阪医科大学の教職員各位におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと平成25年3月末日をもちまして本学を退職することになりました。

私は、昭和47年本学を卒業後、大学院で衛生学・公衆衛生学を専攻し、吉田寿三郎教授の指導のもとに研究活動を開始しました。当時教室では3つの主要なテーマのもとに研究が行われており、そのいずれの分野にも参画しその手法を修練し得たことが、今日までの教育・研究の礎となりました。すなわち吉田教授からは高齢化社会を迎えるわが国における老人保健

と福祉のあり方について衛生行政の対応を含めて予防医学的見地から研究することを、また吉田康久先生（現本学名誉教授）からは基本となる実験衛生学を通して自然環境、人工環境と人体の関係を考察し、健康への影響を生態学的視点から探求することを、さらに緒方昭先生（現福井大学名誉教授）からは包括的な生活の場である地域社会における医療・保健のあり方を疫学的手法により評価、考察することを学びました。

その後、厚生省国立公衆衛生院、ロンドン大学、さらに福井医科大学での研究、研修をへて当教室の教育・研究の主テーマである環境中毒学、産業医学および地域医療・保健・福祉学に焦点をあてて研鑽を重ねましたが、その間JICAプロジェクトや他学・地元行政との共同研究などを通じて国内外で数多くの恩師、同僚、後輩、終始私を支えてくれた教室員諸兄に巡り合えたのが私にとり何よりの宝となりました。

また教授の任期中、中山国際医学医療交流センター長や図書館長、安全対策室長、本学医師会会長としての重責を果たすことが出来たのも関係各位のご指導・ご鞭撻のたまものと感謝申し上げます。

末筆になりましたが、伝統ある本学の益々の発展と、教職員各位、学生諸君のご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げ、退職と御礼のご挨拶とさせていただきます。



定年退職にあたって

吉田 龍太郎 (大学院医学研究科)

平成9年12月に大阪医科大学生理学講座講師としてお世話になって以来、15年と3.5ヶ月が経過し、本年3月末で定年退職いたします。京都大学では大学院生、中央検査部医員、医化学教室助手を含めて11年2.5ヶ月、米国留学が3年、大阪市の(財)大阪バイオサイエンス研究所では細胞生物学部門部長として10年ですので、卒後40年で最も長い職場となりました。

平成18年7月に研究機構研究教授にさせていただくまでの約8年半の間、生理学教室の教員として、消化器、血液や内分泌等の講義と血圧の実習、免疫学の一部の講義と平成15年度からはproblem-based learning (PBL)を担当しました。平成20年4月より研究機構専門教授として、生理学での血液一般の特別講義、PBLと病原体・生体防御Iの講義を担当し、免疫学や病原体・生体防御Iの講義では、教室の最前列で数人の学生が熱心に聴いてくれたことは非常に嬉しい思い出です。平成24年4月からは大学院医学研究科専任教授として、大学院のあり方の議論にも参加させていただきました。

平成11年の5月の連休明けからは、大阪医科大学の形成外科から、その後、耳鼻咽喉科、一般消化器外科、眼科や大阪薬科大学循環病態治療学科からの院生を受け入れ、私自身の専門領域(移植拒絶機構)のみならず、皮膚、毛髪、アレルギー、癌、自己免疫疾患など広範囲な分野で計22名の院生と研究を楽しみました。学内では、平成17年6月から二期4年間、大阪医科大学研究機構副機構長として、谷川允彦研究機構長、宮武伸一副機構長と研究機器の整備のために私学助成へ申請し、学内外との共同研究の推進とOMC学術フロンティア研究奨励制度を新設して研究の活性化に努めました。

私は典型的な体育会系教員で、学生実習では、所属クラブを聞き、帰宅部の学生にはクラブへの入部を勧めました。しかし、私の特技であるソフトテニスの部員にもあっさり再試験を通告したので、部員からよくブーイングを受けました。学生諸君と週末にテニスを楽しみ指導することもありましたが、もちろん体罰はありませんでした。ダンス部の顧問としては、部員と

一緒に学祭等で踊れなかったことを非常に残念に思っています。

本学での15年余にわたる長期間、楽しく教員生活を続けられたこと、大阪医科大学の教職員、学部学生および院生の皆さんに心より御礼申し上げます。伝統ある大阪医科大学の今後の益々の発展と、教職員の皆様ならびに学生諸君のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。



定年退職にあたって

出口 寛文 (医学部教育機構)

このたび、平成25年3月31日をもちまして本学を定年退職することとなりました。昭和48年3月に本学を卒業し、ただちに内科学3教室に入局しました。それから、今日に至る41年間、学生時代を含めれば47年間、これまでの人生のまさに大部分を大阪医科大学でお世話になりました。内科学Ⅲ教室では故鷹津 正 名誉教授、河村 慧四郎 名誉教授、北浦 泰 名誉教授に師事し、循環器を主とする臨床、研究、教育に従事してきました。その間、諸先輩、同僚、後輩の先生方から計り知れないほど多くのことをご教示いただきました。また、看護職や事務職の方々には外来・病棟などさまざまな局面で支えていただいたこと大変感謝しています。



平成12年には総合内科 科長として臓器別専門医療と連携した総合診療を立ち上げ、全人医療やチーム医療についても深く学ぶことができたと思っています。また、平成14年には栄養部長を兼任し、栄養士、調理師の方々とともに、当時事務部門であった栄養課を診療部門の「栄養部」として整備することができました。ご協力いただいた皆さまにはここに深く謝意を申し上げます。

平成12年頃から学部教育の大改革が始まり、本学もカリキュラムの大きな変革がありました。臨床の仕事とともに、臨床技能教育、特にOSCE (Objective structured clinical examination) などの学部教育にも関与するようになりました。その当時は若く活力あふれる先生方がたくさんおられ、OSCE導入を実現するために大阪医大版の教材やビデオを作成するなど皆さんと一緒に教室・診療科横断的な仕事をすることができました。2泊3日のOSCEワークショップでは、医学教育の在り方に始まりOSCEそのものに対する賛否両論を含めた意見百出で、議論は夜中の懇親会にまで及びました。この当時の出来事が私の心の中ではとりわけ印象に残っています。臨床技能教育の実現に向けた多難な時代をこれらの先生方と一緒に乗り越えてこられたことは大変な幸せであったと思っています。感謝の念は言葉では言い尽くせないものがあります。本当にありがとうございました。

わたしは平成19年に新設された教育機構に移り、学部教育に一層関わるようになりました。臨床実習履修評価試験の開始、OSCEにおける教員負担の軽減、国試対策、三大学医工薬連環科学教育など懸案が多く、そのいずれについても専門教授としての職責が果たせたのかどうか、いささか心もとなく忸怩たる思いもあります。退職後は再び臨床医療にもどり、この高槻の地で地域医療に専念する所存ですが、何らかのかたちで母校のお役たつことができればとも思っています。



いつの時代にあっても教育の大きな原動力は若手の先生方や大学の活力に支えられると信じています。自由の学風の中でも事があれば一致団結して対応し、力を発揮できるのが大阪医科大学です。今後の本学の益々の発展を祈りつつ、これまでお世話になった大阪医科大学の皆様は今一度感謝の意を表したいと思います。

定年退職にあたって

近藤 敬一郎 (キャリア形成支援センター)

昭和49年に胸部外科の前身である旧二外科に入局し、武内敦郎教授が率いる心血管・呼吸器外科グループに身を置くこととなり、爾来今日まで凡そ39年の間、大阪医科大学にお世話になって参りました。本年3月31日をもって、本学を退職することとなりましたのでご挨拶を申し上げます。



私が入局当時の循環器領域でのトピックスは虚血性心疾患でした。とりわけ胸部外科的には冠動脈バイパス手術の黎明期でもありました。前年に佐々木進次郎助教授(当時)がアメリカから帰朝し、第1例目のバイパス手術を実施されたのが、奇しくも私の入局年度でした。その後、第3内科に弘田雄三講師がアメリカから戻られ、冠動脈造影を普及され、また須磨久善君(同級生)が東京から戻られたことも相まってバイパス手術は一気に増加しました。この時代の変遷をつぶさに見ていた私は、迷わずバイパス手術のスペシャリストになることを決め、半生を費やして参りました。この間、新しい心筋保護法、人工心肺を用いない手術法(心拍動下バイパス手術)、新しいグラフト材(外側大腿回旋動脈)さらに心室形成術(ドール手術、バチスタ手術)などを導入し、教室員の学位論文の素材作りに貢献して参りました。

平成16年に勝間田敬弘教授が就任されてからは、専ら若手外科医の教育にエネルギーを傾注してきましたが、平成20年に当大学が文部科学省の支援事業を立ち上げるにあたり、専門教授のポストを頂戴し、若手医師のキャリア形成に助勢するといった仕事内容にシフトして来ました。また翌年には医学部生から医師、地域医療従事者を対象とする医療技術の向上を目指した支援事業にも採択され、益々暇のない生活になってしまいました。しかし、そのお陰で当大学内に今やなくてはならないメディカルトレーニングサポートセンターなる施設が設立されることになり、さらにメディカルトレーニングクラブという学生によるクラブが結成され、部長としてお世話することも出来ましたことを心から喜んでおりますとともに、ご協力頂いた方々に心より御礼申し上げます。

僧房弁形成術で高名なCarlos Duran(スペイン)が言っていますように、外科医として最初の10年はトレーニングに明け暮れ、次の10年はチャレンジし、そして最後の10年は新しい世代の教育に勤しむべき、との教をまがりなりにも全う出来たかと愚考しております。最後に、皆様のご健勝とご活躍と、伝統ある本学の発展を心より願っております。



※芝山雄老先生はご挨拶の掲載を辞退されました

新任教授紹介 受賞等について

新任教授のご紹介—医学部 救急医学—

高須 朗 教授

平成25年4月1日付にて生体管理再建医学講座 救急医学教室を担当させて頂くことになりました。その責務の重大さに身の引き締る思いがします。昭和61年に本学を卒業後、大阪大学医学部附属病院特殊救急部に入局後、県立西宮病院、阪和記念病院、枚方市民病院などで一般外科や脳神経外科の臨床経験を積んだ後、平成5年より赴任した防衛医科大学校では、3次救急患者を対象に外傷、熱傷、中毒、及び重症呼吸・循環不全などのcritical careを中心とした診療と学生や研修医に対する教育を行ってきました。研究面では、「重症出血性ショックに対する新しい治療法の開発」をテーマに取り組んできました。本学に限らず大学病院での救急医療の展開には様々な問題がありますが、「救急医療は医の原点」をモットーに一生懸命に職務を行いたいと思います。もとより浅学非才の身ではございますが、救急医学の発展のため全力を尽くす所存ですので、何卒ご協力とご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



【略 歴】

昭和61年3月 大阪医科大学卒業

平成5年1月 防衛医科大学校 救急部 助手

平成8年7月 ピッツバーグ大学 fellow

平成11年1月 防衛医科大学校 救急部 講師

平成21年4月 防衛医科大学校 救急部 准教授

平成25年4月 大阪医科大学 救急医学教室 教授

スキー部男子、総合優勝しました！

第65回西日本医科大学学生総合体育大会 冬季大会が3月24日～同月30日の期間、菅平高原パインビークスキー場において行われました。

西日本の医科大学のスキー部が参加し、競技が行われ、本学スキー部は男子の部、総合成績で第1位となり、総合優勝を果たしました。

参加された選手の方々は本当にお疲れ様でした。来年もV2目指して頑張ってください。

先輩諸氏、OB・OG、教職員の皆様、今後とも温かいご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

平成25年度 学友会 会長 河合 淳一
スキー部 主将 辻 雄平



第65回西日本医科大学学生総合体育大会 in 菅平高原 2013 3/24～30

受賞等について 平成25年度科学研究費助成事業交付内定について

研修医が選ぶ平成24年度の「ベスト研修医賞」の受賞について

平成25年3月15日、今年度の「ベスト研修医」に綾仁悠介研修医と角南健太研修医の二名が選ばれました。ベスト研修医とは研修医全員が有権者となり2年目研修医のうち「基本的な診療能力（態度、技能、知識）や医療人として必要な基本姿勢・態度に優れ、代表として最もふさわしいと思う人物」を選考するものです。綾仁研修医および角南研修医には黒岩敏彦病院長より3月29日に挙行了した研修修了式において賞状と記念品が贈呈されました。



平成25年度科学研究費助成事業交付内定について

平成24年11月に文部科学省ならびに日本学術振興会へ応募した175件の新規研究計画に対し新規45件、継続7件の合計52件の内定がありました。（平成25年4月4日現在）

※学術研究助成基金助成金については、採択初年度に研究期間全体の交付内定が行われるため、年度毎の交付内定はありません。（平成23年度、平成24年度に採択された学術研究助成基金助成金の交付内定は、今年度は行われません。）

研究種目	新規応募件数	交付内定件数		
		新規	継続	合計
新学術領域研究(研究領域提案型)(継続の研究領域)	2	0	0	0
基盤研究(B)一般	7	0	3	3
基盤研究(C)一般	95	29	2	31
挑戦的萌芽研究	12	2	0	2
若手研究(B)	59	14	1	15
研究活動スタート支援	0	0	1	1
合計	175	45	7	52

(注) 研究活動スタート支援については、平成25年度公募中のため継続の課題のみ記載内定時点で退職等により不在の研究代表者の所属・職名は応募時のもの

《科学研究費助成事業(科学研究費補助金)》

■基盤研究(B)一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
Tregバンク(CD28SA+幹細胞共培養)免疫寛容+MF1導入:移植腎永久生着	泌尿器科学	教授	東 治人	*	2,200	0	0	0	0
腫瘍選択的高LET高RBE粒子線治療による治療抵抗性グリオーマ幹細胞制圧の試み	脳神経外科学	特別任命教員教授	宮武 伸一	*	1,300	0	0	0	0

平成25年度科学研究費助成事業交付内定について

■基盤研究(C)一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
医療的ケアに携わる看護師の学校での活動基盤づくりと専門性を高める支援モデルの作成	看護学科	教授	泊 祐子	*	800	0	0	0	0
在宅療養者と家族のQOL向上を目指した小地域基盤型ケアコミュニティの開発	看護学科	准教授	真継 和子	*	800	0	0	0	0

■若手研究(B)

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
アロ活性化マクロファージによるアロ移植細胞拒絶機構の解析	泌尿器科学	講師	能見 勇人	*	700	0	0	0	0

■研究活動スタート支援

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
壮年期における、多機能携帯端末を用いた甘味飲料摂取改善による減量プログラムの開発	看護学科	講師	月野木 ルミ	*	1,100	0	0	0	0

《科学研究費助成事業(科学研究費補助金)》 《科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)》

■基盤研究(B)一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
難治性子宮内膜癌の治療戦略～高分子ミセルを用いたEMT制御を目指した治療の開発～	産婦人科学	教授	大道 正英	*	5,200	3,400	0	0	0
	内	科学研究費補助金			3,700	2,500	0	0	0
	内	学術研究助成基金助成金			1,500	900	0	0	0

《科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)》

■基盤研究(C)一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
IBL方式を用いた看護アセスメント能力向上教育プログラムの開発	看護学科	講師	西菌 貞子		1,800	1,500	500	0	0
体性幹細胞を用いたバイオドラッグデリバリーシステムによる新規癌治療法の開発	薬理学	講師	伊井 正明		800	800	1,500	0	0
病原性真菌におけるスフィンゴ脂質様マイコトキシン産生機構の解明	生化学	講師	生城 浩子		1,400	1,400	1,300	0	0
心筋カルシウム制御タンパク質及びイオンチャネルの機能における糖鎖修飾の役割	薬理学	教授	朝日 通雄		1,400	1,300	1,300	0	0
フッ化物のリスク評価基準確立とリスク可視化ツールの開発研究	衛生学・公衆衛生学	准教授	白田 寛		1,100	1,400	1,500	0	0
熱中症の法医学確定診断-メタボロミクスを用いた診断に有用なバイオマーカーの検討	法医学	教授	鈴木 廣一		1,500	1,500	900	0	0
IgG4関連の冠動脈・心筋・心膜疾患に関する研究	内科学Ⅲ	教授	石坂 信和		1,500	1,500	800	0	0
心筋症例に対するT2*緩和時間を用いた心臓MRIによる心臓鉄量の評価	内科学Ⅲ	講師	神崎 裕美子		1,700	1,400	800	0	0
高血圧発症ApoE欠損マウスへのスタチン投与による腎保護のメカニズムの検討	内科学Ⅲ	准教授	星賀 正明		2,500	1,200	100	0	0
多発神経障害に対する超音波ガイドを用いた神経近接法による神経伝導検査の研究	リハビリテーション医学	助教	仲野 春樹		600	300	300	0	0
新たな膵α細胞モデルを用いた1型糖尿病におけるグルカゴン分泌異常メカニズムの解明	内科学Ⅰ	助教(准)	三柴 裕子		2,100	900	900	0	0
炎症収束性脂質メディエーターは新生仔ラットCLDの進展を阻止し重症度を緩和する	周産期センター	講師	萩原 享		1,800	900	1,000	0	0

平成25年度科学研究費助成事業交付内定について

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
骨盤腫瘍における標的体積内同時ブースト強度変調小線源治療の開発	放射線医学	講師	吉田 謙		1,600	900	1,300	0	0
移植マウス乳癌細胞が放出するMicrovesiclesは癌の転移を促進する	解剖学	講師	伊藤 裕子		1,400	900	1,000	0	0
乳癌組織における腫瘍内浸潤樹状細胞の成熟化のメカニズムと予後との関連	一般・消化器外科学	講師(准)	岩本 充彦		2,100	600	300	0	0
生体消化管吻合における新規縫合糸の安全性と有効性に関する実験的研究	一般・消化器外科学	助教	李 相雄		1,500	1,000	600	0	0
虚血心筋に特異的に結合するペプチドを用いた薬物送達法の開発と心不全治療への応用	胸部外科学	助教	神吉 佐智子		1,700	1,300	800	0	0
ヘパラン硫酸脱硫酸酵素に着目した椎間板変性の病態解明と治療戦略	整形外科	教授	根尾 昌志		1,500	1,400	800	0	0
アクロメリン酸Aによる難治性疼痛モデルを用いた難治性疼痛のメカニズムの解明	麻酔科学	教授	南 敏明		2,400	900	600	0	0
抗ミューラー管ホルモン遺伝子多型とプロモーター領域のメチル化の卵巣予備能への関与	産婦人科学	講師	山下 能毅		1,300	1,300	1,200	0	0
マイクロRNAを介した子宮頸癌の進展機構の解明と分子標的治療への応用	産婦人科学	助教	林 正美		1,100	1,300	1,500	0	0
卵巣がん腹膜転移におけるMETおよび播種に関わる新規分子の解明	産婦人科学	講師	金村 昌徳		900	1,700	1,100	0	0
卵巣癌のCD24を介したEMT標的分子の解明とdrug delivery治療	産婦人科学	診療准教授	寺井 義人		1,600	1,400	900	0	0
視神経浮腫へのアクアポリンの関与と、その制御による治療効果の検討	眼科学	診療准教授	奥 英弘		1,300	1,300	1,300	0	0
視機能再建を目指した新規視神経再生方法の開発	眼科学	助教	栗本 拓治		2,200	900	800	0	0
寝たきり高齢者の褥瘡予防のための圧分散と寝床内環境調整を加味したシーツの開発	看護学科	准教授	松尾 淳子		2,600	600	500	0	0
糖尿病女性のQOL向上にむけて妊娠・出産・育児にチャレンジできる看護援助の考案	看護学科	教授	田中 克子		1,000	500	2,100	0	0
セクシュアリティの健やかな発達を促す教育プログラムの開発	看護学科	講師	西頭 知子		1,300	500	400	1,000	0
質量イメージングによるアミロイド病変局在性異常修飾蛋白の同定とフィブリル形成機序	臨床検査医学	准教授	中西 豊文		1,600	1,400	1,000	0	0

■挑戦的萌芽研究

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
卵巣癌の抗癌剤耐性評価システムと再発早期発見ツールの構築 - 個別化治療へ向けて -	産婦人科学	教授	大道 正英		1,300	700	800	0	0
腔内細菌叢に着目した早産予防のための妊婦の好ましい生活習慣の検討	看護学科	准教授	佐々木 くみ子		500	1,500	1,000	0	0

■若手研究(B)

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
新たなCOPD多因子評価による肺癌周術期呼吸リハビリテーションの効果	リハビリテーション医学	助教	羽森 貫		500	500	0	0	0
種間交雑が可能なタナゴ亜科魚類2種を用いた種分化の遺伝的メカニズムの解明	生物学	助教	橋口 康之		1,300	1,400	800	0	0
移植拒絶反応を抗原特異的に制御する機構の解明	一般・消化器外科学	助教(准)	井上 善博		1,400	1,400	500	0	0
ストレス性の胸腺退縮剖検例における胸腺ストローマ細胞の分子生物学的な変化	法医学	助教	阿部 俊太郎		1,800	1,400	0	0	0
炎症性腸疾患における遺伝子導入骨髄由来細胞の病変抑制と粘膜再生促進効果	内科学Ⅱ	助教	阿部 洋介		1,800	700	0	0	0
劇症1型糖尿病の発症機序:PD-1の異常に関する遺伝学的・免疫学的解析	内科学Ⅰ	助教(准)	堤 千春		1,600	1,000	0	0	0

平成25年度科学研究費助成事業交付内定について 研究助成金等について

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小児炎症性腸疾患における新規便中カルプロテクチン測定法の臨床的有用性の検討	小児科学	助教(准)	青松 友規		1,600	1,500	0	0	0
基底細胞癌に対する新規の非侵襲的治療の検討;forskolin外用療法の開発	皮膚科学	助教	牧之段 恵里		1,600	1,400	0	0	0
再発悪性脳腫瘍の病態診断における組織灌流を加味したアミノ酸PET画像の意義	脳神経外科学	非常勤医師	松下 葉子		1,700	1,400	0	0	0
Twist 1欠失ヘテロ個体マウスを用いた、頭蓋早期癒合の頭蓋成長モデルの作成	形成外科学	助教	塗 隆志		1,000	700	0	0	0
子育て期の看護師における雇用システムの構築	看護学科	助教	川北 敬美		800	600	500	0	0
静脈血採血における最適な穿刺角度に関する研究	看護学科	助教	原 明子		1,700	500	500	0	0
施設入所高齢者の下肢浮腫軽減に向けたケアプログラムの開発	看護学科	助教	北村 有香		300	1,100	600	0	0
プロテオーム解析による抗癌剤耐性獲得の新規診断マーカーの開発	一般・消化器外科学	助教(准)	田中 覚		1,300	1,000	1,000	0	0

研究助成金等について

■平成25年度 JA共済交通事故医療研究助成 (社団法人農協共済総合研究所)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
頭蓋内圧亢進症例における人工臓臓を用いた持続血糖値測定の検討	古瀬 元雅 (脳神経外科学・助教)	100万円

■2013年4月助成 眼医療研究助成 (公益財団法人大阪コミュニティ財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
スタチンの炎症抑制効果を用いた緑内障治療への応用	奥 英弘 (眼科学・診療准教授)	100万円

■2013年4月助成 ネフローゼ医療研究助成 (公益財団法人大阪コミュニティ財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
ネフローゼ症候群における予後を予測するためのバイオマーカーの開発	芦田 明 (小児科学・講師)	100万円

■平成25年度 「食と教育」学術研究 (社団法人日本酪農乳業協会(Jミルク) 牛乳食育研究会)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
壮年期における、多機能携帯端末を用いた適切な乳製品飲料摂取方法に着目した減量プログラムの開発	月野木 ルミ (看護学部・講師)	100万円

■平成24年度 高齢者の福祉および健康づくりに関する調査・研究助成

(公益財団法人大阪ガスグループ福祉財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
高齢者における腹部の状態と便秘の評価のための超音波画像法の調査・研究	松尾 淳子 (看護学部・准教授)	90万円

○外部研究資金開発企画課から応募申請しました公募助成金等のうち、内定・採択を確認できたもの、及び研究者より直接内定・採択の情報提供のあったものを掲載しています。

■マヒドン大学医学部教授の本学訪問について

中山国際医学医療交流センター長 花房 俊昭

平成24年10月22日、タイのマヒドン大学医学部シリラート病院のChirayu Auewarakul教授が本学を訪問されました。Chirayu教授は留学提携先であるシリラート病院の国際部担当副学部長に新たに就任されたばかりで、来校の際には本校の図書館、講義/新講義実習棟、歴史資料館、メディカルトレーニングサポートセンターを見学して頂きました。充実した施設や環境・衛生面をご覧になり、「シリラート病院の学生で本学留学研修希望者の多い理由が分かりました。」とおっしゃっていました。

また、平成25年2月8日には、同じくマヒドン大学医学部ロマティボディ病院の精神科よりRonnachai Kongsakon教授が来訪されました。同様の施設見学、病院見学に加え、神経精神科の米田博教授とも会談されました。マヒドン大学には2つの医学部・附属病院がありますが、今回奇しくも双方からお客様を迎え、本学との絆を深めることができました。Kongsakon教授には、中山国際医学医療交流センターよりVisiting Professorの称号が授与されました。



■タイ・マヒドン大学、中国医科大学、韓国カソリック大学学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 花房 俊昭

平成25年1月から3月まで、下記の海外3大学の学生がそれぞれ相互交流協定に基づき、海外選抜臨床実習の一環として本学附属病院をはじめとして三島救命救急センター、北摂総合病院、高槻市消防署、国立循環器病研究センターなどで研修を受けました。

学生たちはオリエンテーション・学内見学ののち、予めリクエストのあった診療科を中心に研修しました。時間外にも自発的にメディカルトレーニングサポートセンターで訓練を行うなど、きわめて意欲的に実習に取り組みました。また、本学学生との様々な交流会にも参加し、充実した4週間を過ごしました。

このたびの3ヶ月にわたる研修に際し、ご指導いただいた竹中学長、黒岩病院長をはじめ本学教職員各位、北摂総合病院の木野院長、三島救命救急センターの秋元所長およびスタッフの皆様、また終始エスコートしてくれた国際交流部を中心とした学生諸君に対し、あらためて心より御礼申し上げます。

・タイ・マヒドン大学（シリラート病院）第4学年の学生3名 期間：1月15日～2月8日

Ronnakorn Kongsakon君、Nuttavut Sumransub君、Lawan Ruamrudeemassさん

・中国医科大学第5学年の学生5名 期間：2月4日～3月1日

Zhou YuZheng（周宇政）君、Yu Zhong（虞众）さん、Yan YuMeng（焉雨濛）さん、
Zhou XingTong（周星彤）さん、Ma TengYun（马腾云）さん

・韓国カソリック大学第6学年の学生4名 期間：3月4日～3月29日

Jaeho Seo 君、SeongHyeon Park 君、Sueyun Kim さん、Eun Ji Leeさん

* 研修生全員の留学感想文が中山国際医学医療交流センターホームページに掲載されていますので、御一読いただければ幸いです。（<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/nicmc/>）



竹中洋学長と歓談する中国医科大学学生



根本先生より指導を受けるタイ・マヒドン大学学生



韓国カソリック大学学生(中山太郎先生と)

平成25年度事業計画と予算の概要

1. 事業計画立案の背景

[1] 世界の状況

世界経済は、平成23年以降、欧州政府債務危機、米国連邦債務の法定上限問題、東日本大震災などの影響から減速の緊張が続いていたが、平成24年に入り欧州債務状況の落ち着き、米国の雇用情勢の改善、中国経済の緩やかな拡大傾向などで、世界の景気は全体としては弱いながらも回復基調となった。この結果、平成25年以降も世界の実質経済成長率は、当面+2～3%で推移すると各機関は見込んでいる。

[2] 日本の状況

日本経済は、再生の期待が高まる中で平成24年に入ったものの、明るい絵を描き難いのが実情であった。しかし平成25年を迎え、新政権下、財政と金融の両政策で、より景気刺激的、リフレーション色の強い政策が志向され、10兆円規模の補正予算の執行が進めば、GDP成長率も一時的に浮かび上がる可能性は高い。そこに潜在的に日本が持つ国際的にも通用する技術力や優位性を誇る産業分野の力が加わることで、今後の経済成長の安定化の足掛かりとなれば、現状の本邦デフレも脱却できると期待されている。

エネルギー関係の政策は再生可能エネルギーを中心としたものに代りつつあるが、以前よりも強い省エネルギーが求められることは必至であり、様々な経済活動への影響は大きいと考えられる。

[3] 本法人を取り巻く情況

①医療関係

現行の健康保険制度は、誰もが医療の必要な時に望んだ場所で受けられる「標準的な保証」がある一方、高度先進医療の実践には限りがある。高度医療の推進のためには人手に加えて莫大な費用が掛かることから、「財政的な裏付け」が絶対条件であるが、現行の健康保険制度ではそれを保証するだけの手当てができない。また、現状の厳しい国家財政における社会保障財源では、医療費の伸び率を賄うことができない事情もあり、そのために検討されているのが「健康保険制度の見直し」である。一つの方向性は、今後の医療提供体制として入院医療と介護療養などの役割を明確にすることである。また、地域の中核的な病院に必要な機能を集約し、病院・診療所間のネットワークを構築する。そして人口規模の大きい地方都市を中核都市として位置付け、医療、介護、福祉のネットワークを整備し、医療機関を再編して「地域経済・社会の再生」を目指す。今後、病院の機能別再編成が大きな課題として取り上げられ、病院の機能別集約化と一般病床の絞り込みによる減少が進められる可能性が高い。

平成25年度の診療報酬は改定年度には当たらないが、平成30年度にはDPC/ PDPS（診断群分類に基づく1日当たりの医療費支払い方式）の暫定調整係数が廃止される方向に進んでいることは確かであり、前年度の診療報酬改定における重点課題の一つであった。即ち、特定機能病院について

はその本来の機能を発揮し、国民・患者が望む安心・安全で質の高い医療が受けられる環境を整えていくためにも、その分野への重点配分が必要と考えられている。また今後の課題として、急性期医療への資源の集中投入によってより効果的・効率的な医療を国民に提供する上で、病院・病床機能の強化と分化、在宅医療の充実と重点化を着実に実現していく方向に大きな変化はないと考えられる。

また、消費税の引き上げが、医療や教育関係の非課税特例によって、学校法人に及ぼす負担は過重なものになり、教育や診療に係る税負担の軽減が議論されている。

②教育研究関係

少子化社会における高等教育の在り方として、高等学校教育の質の確保・大学入学選抜の改善・大学の質の転換の3項目を重点的課題とする方向で高大接続・連携が進んでいる。

学部段階の教育に関しては、減少し続けていた18歳人口は2012～2018年に掛けて120万人台と横這いになり、その間、大学進学者数は60万人超とほぼ一定と予測されるが、2019年以後は再び18歳人口が減少し、2031年には約87万人、大学進学者数は48万人になると推計されている。地方では、過剰な投資、学納金のダンピングをはじめとする不適切な学生確保が原因となる学校法人の破綻が散見されている。都市部では、医療系大学（主として歯学部）の学納金引き下げが既に見られ、医学部においてもその兆しが出始めている。本学においては、広報・入試センターを中心に、全学を挙げて公平性、透明性の高い入試選抜に努め、18歳人口の減少に反し、過去10年間、本学の志願者を増加させ、質の高い学生の募集が行われてきた。

医学教育においては、大学認証による外部評価に加えて、世界医学教育連盟が公開した医学教育のグローバルスタンダードによって外部評価を受ける方向にある。

卒後教育に関しては、医師・看護師の卒後教育は大学院課程教育或いは学校教育によらない専門職養成課程の構築が進んでいる。特に、専門医養成と専門看護師養成については、大学附属病院の果たす役割は重要となりつつあり、その体制強化が求められている。

研究関係では、産官学の連携による研究を活性化する方向にあり、医学部では技術・機器・医薬品開発研究に特化した研究が望まれており、その研究成果の知財化が外部資金の導入に重要なカギとなっている。

③労働力の充実化

少子高齢化が進み、構造的な面から労働力不足が懸念される。日本の総人口と労働人口は減少を続けると推計されている。今後、高齢化によって労働力の低い高齢者の割合が高まるため、全体の労働力は恒常的に低下していく見込みである。一方、女性の労働力は、未婚率の高まりや晩婚化、既婚者の就業の上昇などによって増加している。この状況にはワークライフバランスが難しいために就業不能者も多く、家事・育児と仕事の両立に対する職場の理解、法制度の整備、男女の意識改革、保育所の増設などが必要である。しかし、出生率の上昇が労働力増加に繋がることの期待や、女性の労働率の上昇だけでは到底今後生ずる労働力不足を補うことはできないことを踏まえると、自らの組織を強靱化し全員参画による労働力の質的充実化が益々必要となる。

平成25年度 事業計画と予算の概要

2. 中期計画と平成25年度の事業計画

[1] 立案の方針

本法人寄附行為第3条の目的、「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、医科大学その他の教育施設を設置し、国際的視野に立った教育・研究及び良質な医療の実践をととして人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。」に基づき、将来を展望しながら、世界や日本の変化の激しい状況を配慮して事業計画を立案する。

[2] 概要

本法人の事業計画は、平成24年度より、4年間の中期計画項目を示し、診療報酬の改定に合わせて2年毎にその見直しを行うこととした。従って、平成25年度は、原則として平成24年度の中期計画の項目（①財政基盤、②診療、③教育研究、④法人合併、⑤その他）を引き継ぐ。

現在、順調に進んでいる病院経営改善委員会と大学経営改善委員会の活動を維持し、病院建替を視野に入れた校地校舎の良質化については引き続き準備を行い、財政基盤の強化に努める。

診療関係では、病院の建替え準備を行い、第1期として平成27年の中央手術棟竣工を目指し、新病院の全体計画を確定する。加えて、各診療科の効率化を推進し、診療科やセンターの再整備を行う。また、平成30年度から実施される新専門医制度や看護師研修制度を視野に入れて総合医療研修センターを設置し、卒後教育体制と看護師確保体制を整える準備を行う。

教育研究に関しては、国際認証を視野に入れた医学部の新カリキュラムを構築するために、教員・授業の評価を行い、大学全体の学部教育をサポートするITシステムの統合を行う。さらに、大学院医学研究科の教育の実質化を推進し、看護学部の完成に引き続き大学院看護学研究科を設置する。研究環境の整備として、従来の研究機器の整備に加え、研究試薬の管理を充実するなど安全への配慮を行う。

法人合併に関しては、相手方の状況を勘案して、慎重に進めることとし、できる事案から実現する。

その他、事務局制の発展を目指し、新人事考課の導入準備と報奨を継続し、事務組織をインテグリティのある組織へ導くためにstaff self development (SSD) にも役立つSD/FD研修を行う。

[3] 主たる事業（アンダーラインは現在着手中で、継続するもの）

①財政基盤

- ・ 病院経営改善委員会の活動
- ・ 大学経営改善委員会の活動
- ・ 校地資産価値の良質化
 - 西キャンパス発掘調査・北キャンパス北側遊休地活用・さわらぎキャンパス里道整理・有休土地の有効利用など
- ・ 校舎等の資産価値の良質化
 - 校舎と病院のスペースマネジメント

②診療

- ・ 病院全体の将来構想の確定

- ・中央手術棟建築
- ・一部の診療科の改善
- ・診療科やセンター等の再整備
- ・看護師確保体制の整備
- ・卒後教育体制の強化

③教育・研究

- ・教員・授業の評価
- ・医学科の新カリキュラム構築
- ・研究機器の整備
- ・学務用ITシステムの統合
- ・新研究科の設置
- ・医学研究科の実質化

④法人合併

- ・近隣の学校法人との合併推進

⑤その他

その他に、主な項目別の計画と課題は次の通りである。計画から実行に移す項目については、社会情勢を見据えた上で十分な検討を加えつつ柔軟に実施する。

- ・インテグリティのある組織へのstaff self development (SSD) とそれに役立つSD/FD
- ・事務組織並びに事務局制の確立と発展
- ・新人事考課と報奨

3. 予算の概要（予算編成方針）

[1] 本法人の当面の最重要課題

昭和34年に建築された病院1号館を初め、医療施設の大半は最新の耐震基準には対応しておらず老朽化が年々進んでいる。東日本大震災の経験も踏まえ、患者、教職員、学生等全てのステークホルダーの方々の安全安心を確保するためにも新病院の建設（病院施設の建替え）が喫緊の課題である。これらに要する費用は数百億円規模になると見込まれるが、その費用を賄うためには財政基盤の安定・確立が条件となる。

[2] 予算編成の基本方針

このような背景を踏まえ、平成24年10月9日の理事会で承認された平成25年度予算編成の基本方針は、病院等施設の建替えに対応するために、次年度繰越支払資金の増加と十分な設備拡充資金引当資産の積増しとする。この基本方針の下、新規、既存事業のすべてにわたりスクラップ・アンド・ビルドの精神を徹底する。特に平成25年度予算については、『経常費予算ヒアリング会議』を新たに設置し、従来からの課題であった経常経費の見直しと削減に努める。

平成25年度 事業計画と予算の概要

[3] 平成25年度の財政面の数値目標

同じく、前述理事会で諮られた財政面の数値目標である次年度繰越支払資金については、年度末の前受金を除く残高を35億円以上確保するとともに、近い将来の中央手術棟建設を視野に入れ、その内5億円を設備拡充資金引当資産に積み立てること、帰属収支差額については、帰属収入の5%を確保することとした。

[4] 予算項目の概要

(1) 資金収入

① 学生生徒等納付金収入

医学部および看護学部¹の収容定員の増加を見込んでいる。さらに医学部の教育充実費の納付方法を、初年度500万円から200万円に変更することによる減収分を見込んでいる。

② 手数料収入

医学部については、過去10年間受験生を増加させてきたこと、並びに近隣の大学の学費の値下げ等により大きな増加を見込めない為、前年度並みの受験生を見込んでいる。看護学部については、この数年看護学部の新設が続き、さらに今後も増加傾向にあるので、昨年度並みの受験生を見込んでいる。

③ 寄付金収入

創立90周年記念事業募金に的を絞り募金活動を展開する。医学部学生保護者からの教育研究環境整備にかかる寄付金も前年度より増額した計画としている。

④ 補助金収入

医学部助教を大学院担当教員として兼務させることによる経常費補助金一般補助の増加を見込んでいる。一方G P関係の国庫補助金は、平成24年度で期間満了となるため、その分の減収を見込んでいる。

⑤ 資産運用収入

テナント収入等施設設備利用料、駐車場利用料等が主な内容であるが前年度との大きな増減は無い。金利の上昇は見込めないので、平成24年度見込額を計上している。

⑥ 資産売却収入

前年度は看護師寮跡地と府営住宅の土地の交換により収入を計上したが、平成25年度には資産売却の計画はない。

⑦ 事業収入

L Dセンターや治験を中心とする受託事業収入の増加を見込んでいる。

⑧ 医療収入

平成25年度は診療報酬の改定の年度ではないが、最近の大幅な入院単価アップによる増収を見込んでいる。また病院経営改善委員会を中心とする経営努力による増収分も見込んだ。

⑨ 借入金収入

冬季賞与支払分として短期借入金を計上したが、平成25年度の期中の資金繰りをみて借入れをしないこともある。

⑩雑収入

平成25年度の団塊世代の退職金財団交付金収入増を見込み計上している。

⑪前受金収入

学部の収容定員の増収分を見込むとともに看護学部については、完成年度になるため前年度並みを見込む。さらに入学年度の教育充実費負担軽減のための制度導入による減収を見込んでいる。

⑫その他の収入

平成24年度実施の診療報酬流動化の為前期末未収入金収入の減少を見込んでいる。

(2) 資金支出

①人件費支出

本給支給額については定期昇給をベースとし俸給表の改定は行わないこと、賞与支給額については、前年度支給率と同様の加給額を予算化した。手当については、役職手当の見直し及び時間外手当の増加を見込んでいる。退職金については、団塊世代分を見込んでいる。

②教育研究費支出

大学部門において、平成25年度には看護学部研究科の設置申請を計画しており、さらに大学認証評価更新の年度にも当たるため、その費用を見込んでいる。また教員業績管理システム構築に係る費用を計上している。講座研究費については、平成24年度と同額で計上を予定している。附属病院部門においては、導入を計画している電子カルテシステム稼働に伴う維持管理費を計上している。修繕費については、病院7号館患者待合表示システムの修繕費用を計上している。医療材料費については、医療収入に対する経費比率を基に積算した。

③管理経費支出

平成24年度に広域医療連携センターが発足し、関連病院や地域の病院及び診療所との連携強化を図るシステム構築費用を計上している。JR高槻駅と附属病院間で運行を開始する送迎バス運行費用も見積もっている。

④借入金返済支出

平成25年度借入は期中返済とし、定時償還分を含め予算計上した。

⑤施設関係支出

高度診療体制の構築に向け中央手術棟の建設に着手するに当たりその諸費用を予算に計上するとともに、建設着手金を予算に計上している。さらに、中央手術棟建設予定地である西キャンパスの隣接地を購入する計画とした。

附属病院24病棟の改修、防火ダンパーの更新、総合研究棟動力盤3年更新計画の2年目分、老朽化した保育室の建て替え費用も予算計上した。

なお、平成24年度に計画していた総合研究棟改修工事（ヒートポンプチラー更新）繰り越し分も予算計上している。

⑥設備関係支出

医療機器予算については、平成24年度予算同額（医療機器選定委員会分2億円、インセンティブ分5000万円）を計上する。3,000万円以上の高額医療機器については、収益性・緊急性・重要性を念頭に別途導入を検討する。

平成25年度 事業計画と予算の概要

⑦資産運用支出

設備拡充資金引当資産の積み増し7億円を見込んでいる。

⑧その他の支出

看護師確保のためのマンション一棟借りの費用を見込んでいる。看護学部推薦入試（専願）特別奨学金制度導入により、貸付金の増額を見込む。また学校法人大阪医科大学看護奨学金貸与制度整備のため貸与金の増額を見込んでいる。

(3) 帰属収入

学校法人の経営に必要不可欠である消費支出の財源となる帰属収入は、平成24年度予算比1.2%増収とした。前年度計上した大阪府との土地交換による資産売却差額の計上は一過性のものであったためこの分が減少するとともに、学生生徒等納付金収入は教育充実費の納付方法の変更のため対前年度予算比減少したが、医療収入は対前年度予算比で4.6%増加したため、結果的には微増となった。

(4) 消費支出

人件費、教育研究経費、管理経費、借入金利息等の消費支出額は、対前年度予算比で1.5%増加した。

(5) 帰属収支差額及び消費収支差額

帰属収支差額については、当初の予算編成方針どおり、帰属収入の5%を確保することができた。しかし、基本金を組み入れると消費収支差額では収支の均衡しない予算編成となっている。

[5] まとめ

現在本法人は、創立100周年を視野にいれ冒頭に記載したとおり中央手術棟建設に続く病棟及び外来棟の建替えの他、大学施設の整備、高額先端機器の導入等ハード面の充実とともに、人材の育成、労働条件の充実、自己啓発の促進等ソフト面の整備も検討しつつある。その前提をなすのが財政基盤の磐石化であるが、平成25年度予算はこれらを視野に入れ、かなり高い目標予算とした。いいかえれば平成25年度は、本法人の中長期計画実現に向けての嚆矢の年度との位置づけによるものである。

なお、これを達成するのは経営陣の努力はもちろん、教員及び職員、学生保護者、同窓等ステークホルダーの協力なしにはなしえない。関係各位の強力な支援をお願いしたい。

平成25年度 事業計画と予算の概要

平成25年度 収支予算 消費収支予算

(単位:百万円)

収入の部				支出の部			
科目	平成25年度予算額	平成24年度予算額	増減	科目	平成25年度予算額	平成24年度予算額	増減
学生生徒等納付金	3,917	4,070	▲153	人件費	15,213	14,807	406
手数料	237	200	37	教育研究経費	13,640	13,234	406
寄付金	635	626	9	医療材料費	7,363	7,311	52
補助金	1,810	1,654	156	減価償却費	1,619	1,619	0
資産運用収入	216	218	▲2	管理経費	2,023	2,337	▲314
資産売却差額	0	636	▲636	減価償却費	154	154	0
事業収入	380	389	▲9	借入金等利息	38	57	▲19
医療収入	25,300	24,177	1,123	資産処分差額	54	54	0
雑収入	438	566	▲128	徴収不能引当金繰入額	3	3	0
帰属収入(A)	32,933	32,537	396	予備費	300	300	0
基本金組入額	▲2,387	▲2,527	140				
消費収入の部合計(C)	30,546	30,010	536	消費支出の部合計(B)	31,271	30,791	480
				当年度消費支出超過額	725	782	
				前年度繰越消費支出超過額	36,972	36,190	
				翌年度繰越消費支出超過額	37,697	36,972	

資金収支予算

(単位:百万円)

収入の部				支出の部			
科目	平成25年度予算	平成24年度予算	増減	科目	平成25年度予算	平成24年度予算	増減
学生生徒等納付金収入	3,917	4,070	▲153	人件費支出	15,383	15,131	252
手数料収入	237	200	37	教育研究経費支出	12,021	11,615	406
寄付金収入	607	598	9	医療材料費支出	7,363	7,311	52
補助金収入	1,810	1,654	156	管理経費支出	1,766	2,182	▲416
資産運用収入	216	218	▲2	借入金利息支出	38	57	▲19
資産売却収入	0	805	▲805	借入金等返済支出	1,488	1,488	0
事業収入	380	389	▲9	施設関係支出	967	1,207	▲240
医療収入	25,300	24,177	1,123	設備関係支出	1,456	1,967	▲511
入院収入	18,717	17,672	1,045	資産運用支出	799	1,949	▲1,150
外来収入	6,169	6,046	123	その他の支出	4,203	2,846	1,357
その他の医療収入	504	577	▲73	予備費	300	300	0
雑収入	438	566	▲128				
借入金等収入	500	500	0	資金支出調整勘定	▲3,659	▲3,483	▲176
前受金収入	2,709	2,526	183	次年度繰越支払資金	5,865	7,651	▲1,786
その他の収入	2,744	5,437	▲2,693				
				支出の部合計	40,627	42,910	▲2,283
資金収入調整勘定	▲6,417	▲3,691	▲2,726				
前年度繰越支払資金	8,186	5,460	2,726				
収入の部合計	40,627	42,910	▲2,283				

注1：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

- (1)「寄付金」には、資金収支上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
- (2)「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
- (3)「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

注2：平成25年度予算の前年度繰越支払資金は実態に合わせて平成24年度決算見込の計数を記載している。

注3：十万単位を四捨五入しているため合計と一致しない場合があります。

■ 新生児蘇生法研修会報告

開催日時：平成24年3月16日（土）13：30～17：00
 場所：大阪医科大学附属病院 メディカルトレーニングサポートセンター
 インストラクター：大植 慎也（新生児専門医）
 番 聡子（新生児集中ケア認定看護師）

平成21年度より文部科学省の支援のもと、周産期医療体制整備計画を行う全国の国公私立大学病院（15大学：国立大学9、公立大学1、私立大学5）の1つに選定されています。これは、困難なハイリスク分娩や病的新生児に対応できる高度周産期医療の体制を整えると同時に、周産期医療に必要な幅広い人材育成を試みることを目的としています。その計画の一環で、院内および周辺施設の周産期医療に関わる医療従事者（医師、助産師、看護師）へ日本周産期・新生児医学会公認の蘇生講習会を定期的に行っています。講習では出生時に胎外呼吸循環が順調に移行できない新生児に対して、迅速かつ効果的な心肺蘇生法について講義し、シナリオとシミュレーター人形を用いて、アルゴリズムに基づいた新生児蘇生法を指導しています。参加者は真剣に取り組み、質問をしながら何度も練習し手陽圧換気や胸骨圧迫などの技術を習得していました。感想としては「実技演習を繰り返すことで、内容の理解に繋がりました」「実践で活かしていきたい」など、効果的な講習会になりました。



■ 認知症家族・関わる人の情報交流会・相談会

看護学部 老年看護学領域 教授 小林 貴子

大阪医科大学では、年間を通じ様々な形で地域との交流活動を行っています。看護学部でも学部開設時より看護実践研究センターを中心に地域への情報発信・交流活動を推進しています。このような活動を起点とし、その後も各看護学領域と地域専門職者及び地域との連携・協働した看護学部後援事業を行っています。2012年度はシリーズ4回目の「認知症家族・関わる人の情報交流会・相談会」を後援しました。この相談会は、NPO法人「高槻の高齢社会をよくなる会」（1993年発足）の活動の1つとして2008年設立した「認知症を理解し、地域で支える会」（代表：富永クリニック 富永正夫医師）と「認知症の人と家族を支える会」が主催し、看護学部の他、高槻市・高槻市社会福祉協議会・新阿武山病院認知症疾患医療センター等々が後援、「協働プラザ 市民と行政との協働応援事業」の助成事業として行いました。

老年看護学領域教員は「認知症を理解し、地域で支える

2013年
 日 3月20日（祝・水）13時～16時
 場 城内公民館
 参加無料、事前申し込み必要（要面）
 助成会「在宅認知症者を支える会」
 13時 榊川 Dr.新阿武山病院
 専門職を交えた情報交流会（グループ別）
 【医療、施設利用、助産師、介護】
 14時～16時
 医師、介護専門職による個別相談会
 （個別相談は事前申し込み予約制です）
 14時～16時

個別相談対応
 ● 相談医師 大西雅博医師
 ● 相談助産師 湯本正夫医師
 ● 相談クリニック 富永クリニック
 ● 相談介護職 介護指導者
 アナウンサー

当日ミニサービス開催
 相談参加中、ご本人を見守ります（事前予約制）。

**認知症家族・関わる人の
 情報交流会・相談会**

認知症の人に関わり、介護をされている方、困っていること、悩んでいることはありませんか？

「ここで相談したらいいの？」

第4回

～ 認知症介護を楽にするために ～

介護をするうえで悩みや疑問を、医療や介護の専門家と交えて学び、家族介護者同士の情報交換の時間を持つことで、日頃の不安や疑問を解消しましょう。また、心豊かな家族さんを選んで一緒に出席することをお勧めします。
 一人参加、気楽にご相談ください。

主催：認知症を理解し、地域で支える会 問合せ先 080-6220-3986（中継）
 認知症の人と家族を支える会 問合せ先 072-689-2512（山本）
 後援：高槻市 高槻市社会福祉協議会 高槻市高齢者生活相談支援センター
 大阪医科大学看護学部 新阿武山病院認知症疾患医療センター
 光愛病院認知症看護 介護 NPO法人高槻の高齢社会をよくなる会

「協働プラザ 市民と行政との協働
 応援事業」の助成事業です

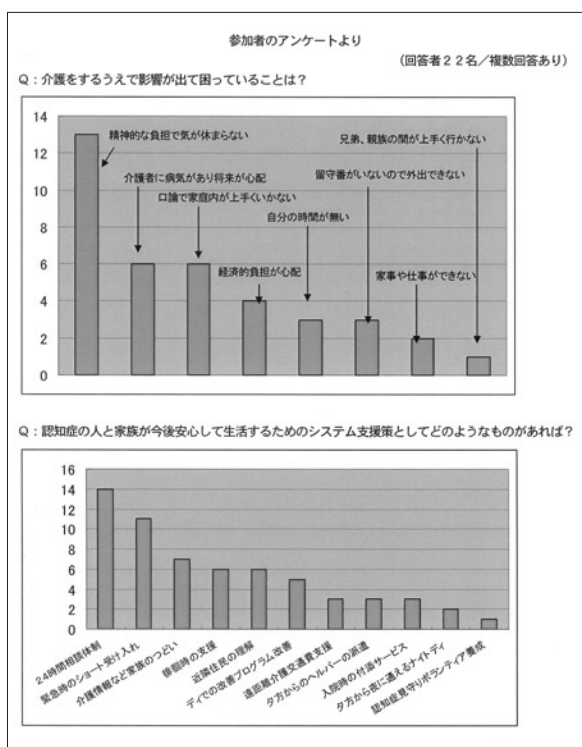
会」のメンバーとして、各専門職者、地域住民、ご家族等、多様な人々との丁寧な準備会議を行い運営、当日の相談対応等を担当しました。定例の準備会は、月1回夕刻に看護学部会議室を使用させていただいており、利便性の良い安定した会場で、メンバーからも感謝を受けています。

主催の「認知症を理解し、地域で支える会」は、地域に密着した活発な活動を10年以上継続している組織であり、このグループの強みは、地域の認知症治療に関わる専門医の協力があること、また看護・介護・ケアマネジャー・PSW（精神保健福祉士）等の多様な専門職に加え、高槻市（長寿生きがい課）、ご家族、市民が参加しているところです。活動は「認知症をもつ人と家族が住み慣れた地域で生活できるよう支援する」ことをめざし、「認知症サポーター養成講座」「相談会」「講演会」等を開催しています。3月20日の相談会にはご家族24名を含む参加者30名に対し、医師3名の他各専門職15名が、ご家族の様々な相談に対応しました。以下に参加した教員の声を紹介します。

【情報交流・相談会に参加して】

地域住民が参加した情報交流・相談会において交流会（分科会）の「施設相談グループ」のスタッフ（助言者）として参加した。私自身の地域連携室における退院調整の経験を活かし、主に介護保険に関連する施設について意見交換した。相談者は、現在介護認定を受け、在宅で介護保険サービスを利用しながら、軽度の認知症を持つ（MCI）の方を介護されている御家族の方で、そのほとんどが「現在は、在宅で生活できているが今後認知症の進行とともに、家族が対応できなくなった時、施設入所を考えているが、どのような施設を選択したら良いか。どのような手順で施設入所の手続きをするか」といった、より具体的な相談が多くあった。地域で活動されている介護支援専門員（ケアマネジャー）と共に情報提供を行ったが、印象的であった点として一般の地域住民が介護保険制度に関する正しい知識を得ようにも、より具体的な情報を得られる環境が整備されていないことであった。

2000年に介護保険制度が始まり、13年目を迎える中で早急に解決すべき点であると考えられる。こういった、交流会に参加することで現在の状況をリアルに知ることができ有効であるとともに、大学が地域において果たす役割もあるということを感じてきた。



情報交流会の前に、勉強会（準備室からの風景）講師：柳川先生



富永正夫医師

平成24年度卒業証書・学位記授与式

日 時：平成25年 3月1日（金）13：00～
場 所：高槻現代劇場 中ホール
医学部卒業生 104名



■平成24年度 医学部医学科 卒業式 告辞

学長 竹中 洋

第62期生の皆さんご卒業おめでとうございます。

また、ご家族の皆様にも心よりご子息、ご息女のご卒業をお慶び申し上げます。大阪医科大学にとりまして、卒業式は大変重要な学事でございます。関西医科大学・学長 山下敏夫先生、大阪薬科大学・学長 藤田芳一先生はじめ、ご列席頂いておりますご来賓の皆様には教員並びに卒業生を代表して御礼申し上げます。

中山国際交流センターにおける学生交流事業で現在本学において研修中の中国医科大学の学生の皆様をご紹介します。

Now, I would like to introduce our guest students from China Medical University.

Thank you for your attendance at our graduation ceremony of Osaka Medical College on this memorable day.

平成24年10月8日の京都大学・山中伸弥教授のノーベル医学・生理学賞受賞は日本の医学研究が世界の最先端にあることを示しました。ご承知の様に受賞の理由は、「成熟した細胞を、多能性を持つように初期化できることを見いだした。」とされています。ここで言う多能性とは生物個体を形成するほぼ全ての種類の細胞になることで、初期化とは細胞を限りなく未成熟な状態に戻すことを指します。これらの細胞をinduced Pluripotent Stem cell (iPS細胞)と呼ぶことはご承知だと思います。

iPS細胞が誕生する以前のこの分野の研究としては、今回同時に受賞されたケンブリッジ大学ジョン・ガードン博士が1962年に「オタマジャクシの腸の細胞の核を卵子に移植してクローンのカエルを誕生させた」ことに始まります。

そして本日卒業される皆さんの多くが小学校に入学される頃、1997年にクローン羊「ドリー」が作製されました。クローンES細胞にはクローン人間を作るのかと言う「大きな倫理上の問題」を抱えています。

iPS細胞の特性は、これらの課題を克服して、受精卵を必要とせず万能細胞を実現したことにあります。現在では、網膜色素上皮細胞の作成、神経幹細胞の作成などの医療応用が急速に進展しています。今日の新聞紙上には臨床治験が始動すると大きく報道されていました。

卒業生の皆さんは、これから挑戦される医学・医療の世界で大きな可能性を秘めた「iPS細胞」に例えることができます。多くの方が進まれる新医師臨床研修から始まるキャリア形成、その結果としての専門医、病院勤務をへて皆様は成熟した医師として地域医療に進まれるものと考えています。言わば、医師として無限の可能性を持って、本日、大阪医科大学の卒業式に臨んでいただけるのです。

一方で、医師や研究者の「倫理」や「法令遵守」がこれほど求められている時代ありません。皆さんが一ヶ月後に経験される実社会では、毎日の様に報道される「診療報酬不正請求」や「診療拒否」或は「研究データ捏造」など、医学・医療に対して国民の不信が払拭されない状況が続いています。

私は、これらの問題を解決する基本的な考え方は「医療人が広い意味での利益相反意識を絶えず持つこと」と考えています。目の前の病める人達に「最新の正しい、事実に基づいた医学知識」と「それを使うことが出来る医療技術」、加えて「信頼される人格」を兼ね備え診療に携って頂きたいと願っています。その際、常に医師と患者の関係に、何ら利益に相反するものがないことを確認して頂ければと思います。

大阪医科大学は卒業生である皆さんに将来、臨床研究や、基礎医学研究に興味を持ち、それらを経験して欲しいと考えています。私たちは臨床医のキャリア形成上そのような時間が不可欠だと考え、大学院医学部研究科を運営してきました。例えば、科学立国として政府が定めたライフサイエンスの成長戦略は大きな成果を挙げつつあります。一昨日、私は厚労省の会議に出席致しておりましたが、その席で「文科省所轄のtranslational research部門から10課題、厚労省難治性疾患克服事業から4課題が、日本発の臨床治験として世界の新薬開発競争に名乗りを上げている」旨の報告が在りました。

欧米では新規臨床治験が殆ど滞っている現状を考えれば、我が国の医学・医療が今後大きく羽ばたいていくと考えられます。どうぞ、臨床の現場から問題意識を持ち続け、病気の克服と人類の福祉に尽力できる楽しみを経験して頂きたいと思います。

本学は1927年の建学以来86年が過ぎました。現在90周年、100周年を目指して、附属病院の新建築などの事業が計画されています。卒業生の皆さんは今後も大阪医科大学の発展に大きな関心を持ち続けて下さい。

最後に皆様10年後20年後の我が国の医学と医療の担い手として花開かれることが、私達教職員の願いでありますことを申し上げ、第62期生の旅立ちに際しての学長告辞と致します。

平成25年3月1日

学内行事

平成25年度 医学部新入生学外合宿

平成25年度の「第18回 医学部新入生学外合宿」が、「レイクフォレストリゾート」(京都府相楽郡南山城村)において、新入生112名、教職員約25名の参加のもと、4月4日(木)～6日(土)の2泊3日にわたり実施されました。

新入生達は、与えられた課題に対するグループ討議、救急蘇生座学・体験学習、レクリエーション、懇親会等を通じてお互いの親睦を深めました。



平成25年度 看護学部新入生学外合宿

看護学部第4期生の新入生学外合宿が「VIPアルパインローズビレッジ」(兵庫県篠山市)において、4月5日(金)～6日(土)の1泊2日で実施されました。

今回の研修は、新入生91名(体調不良にて1名欠席)に加え、看護学部の2～4年生29名も新入生をサポートするために教職員(14名)とともに参加し、4つの研修「信頼関係を築くアクティビティ」、「アルコールパッチテストおよび大学生活における注意点」、「在学生による大学紹介および交流会」、「救急蘇生とAED講習」を通してお互いの親睦を深めました。

昨年同様、丹波篠山の豊かな自然に囲まれた施設の中で、看護学部の在学生とライフサポートクラブを中心とした医学部生の参加・協力により、非常に有意義な合宿となりました。



平成25年度 医学部 白衣授与式

日時：平成25年4月23日(火)13時30分～
場所：臨床第一講堂

クリニカル・クラークシップの実習として、臨床現場へ赴く第5学年の学生109名に対し、学長、病院長、教育機構長(教育センター長)より白衣が授与されました。また、学長、病院長より医療人として、自覚と責任感を持って行動するよう挨拶がなされ、学生より医療人としての意識を新たにすることが宣言されました。



平成25年度 職員入職式

日 時：平成25年4月1日（月）9：30～

場 所：臨床第一講堂

事務職員・技術職員等24名、看護職員111名、計135名の入職式が行われました。

植木理事長の挨拶に続いて、磯田事務局長より一人一人に辞令が交付され、臨席者の紹介、黒岩病院長の挨拶が行われました。



■歴史資料館特別公開講座

歴史資料館特別公開講座が、下記の通り開催されました。

日 時：平成25年3月16日（土）14：00～15：00

場 所：別館3階 講義室

演 題：いのちのつながりの中で
～ヴォーリズ-大阪医大-ホスピス～

講 師：ヴォーリズ記念病院 (<http://www.vories.or.jp/>)
ホスピス長 細井 順 先生

参加者：約80名



■第15回 高槻ジャズストリートの演奏会場として利用されました

高槻市では、平成11年より毎年ゴールデンウィークの2日間にわたり、市内の公共施設や駅前広場など約45会場でジャズの演奏が行われる“高槻JAZZ STREET”が開催されています。

本年も、高槻ジャズストリート実行委員会と高槻市より会場の一つとして本学別館（歴史資料館）を利用したい旨の依頼があり、下記のとおり開催されました。

日 時：平成25年5月3日（金・祝）、4日（土・祝）
13：00～16：00（両日共）

場 所：別館3階 講義室

入場料：無料

来場者：合計450名



平成25年度 市民公開講座

■第1回

平成25年4月20日（土）14時～ 臨床第一講堂
 『がんのリハビリテーション』
 リハビリテーション医学教室 教授 佐浦 隆一
 『がん治療を支えるお薬とその使い方』
 附属病院薬剤部 高橋 智恵子
 『あなたもトライ！－自宅でできる呼吸訓練－』
 附属病院看護部 呼吸療法認定士 西原 望



平成25年度 大阪医科大学 市民公開講座 開催予定

回数	開催日	演 題	担当部署	演 題	薬剤師
第2回	5月18日(土)	女性のための形成外科	形成外科学教室 准教授 久徳 茂雄	皮膚のトラブルとお薬の話	梅本 裕子
				皮膚や傷あとについての悩み解決	東尾 智美
第3回	6月15日(土)	ボケたり脳卒中にならないために一脳外科、脳卒中、抗加齢医学の専門医が語る最新医学―	脳神経外科学教室 講師 梶本 宜永	脳卒中予防薬と上手くつき合うには	山崎 浩平
				脳卒中の早期発見のために知っておきたいこと	松本 由香
第4回	9月7日(土)	腎癌治療の進歩 ―手術から分子標的治療まで―	泌尿器科学教室 講師 稲元 輝生	腎がんの分子標的薬と上手くつき合うために	片岡 憲昭
				腎がんと日常生活	福岡 美紀
第5回	11月16日(土)	ペインクリニックについて ―痛みとその治療・対処法―	麻酔科学教室 助教 藤原 俊介	痛み止めのお薬について	平 祥子
				痛みに負けない！ 一心と体のケア	渡部 綾子
第6回	12月21日(土)	目がかすむんです	眼科学教室 診療准教授 奥 英弘	点眼薬の使い方について	山口 修子
				あなたの目を大切にするために	橋本 久美
第7回	平成26年 1月18日(土)	子宮頸がんはワクチンで予防できる	産婦人科学教室 診療准教授 寺井 義人	ワクチンのお話	高嶋 美季
				子宮頸がんの予防と日常生活について	藤原 寛子



平成25年度の市民公開講座開催予定については、公式ホームページでご確認いただけます。

<http://www.osaka-med.ac.jp/>

*** ご寄付のお願い ***

大阪医科大学では、教育環境整備事業および大阪医科大学基金など各種事業への募金を募集しています。

皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

大阪医科大学へのご寄付は、税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

【税制上の優遇措置とは】

〔個人の方のご寄付〕

平成23年度税制改正により、既存の「所得控除」に加え、寄付者の選択により新たに「税額控除」の適用を受けられるようになりました。寄付金の約40%（ただし、所得税の25%が限度）が所得税額から控除されます。

〔法人の方のご寄付〕

一般の寄付金の損金算入限度額と別枠で損金算入することができますし、あるいは「受配者指定寄付金」として寄付金全額が損金に算入できます。



●現在募集中の募金の種類です。

- ① 教育環境整備事業募金
- ② 大阪医科大学基金
- ③ 附属病院の整備事業募金
- ④ 別館講堂「机募金」
- ⑤ 「別館」・「歴史資料館」維持事業

募集要項につきましては、本学ホームページ (<http://www.osaka-med.ac.jp/>) の「ご支援のお願い」から、お入りください。

■大阪医科大学基金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成25年1月1日から平成25年3月31日までの間の寄付金入金件数は26件、金額は2,386,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成25年3月31日までの間の寄付金入金件数は525件、金額は73,234,000円です。

(順不同・敬称略)

多摩川精機販売株式会社	医療法人耳鼻咽喉科服部医院	医療法人毅峰会吉田病院	大阪電材株式会社
森 浩志	大野 浩二	谷川 允彦	白田 寛
村上 澄子	大野 博司	袖岡 秀幸	
井口 健	森本真佐子	木村 正士	金森ひろ子
森本 純司	金田 恵孝	西山 裕子	
小牟田美幸	濱本由美子	守本 俊子	大槻 勝紀
米田 博	池本 敏行	植田 政嗣	
出坂 秀雄	西本 泰久	石川 俊明	奥田 準二
南 敏明	西村保一郎	朝日 通雄	
寺井 陽彦	竹内 淑恵	高井 七重	澤村 律子
藤岡 重和	佐野 浩一	田中 陽子	
田中 和子	田中 清子	田原 一也	成松 正治
			匿名2件

※毎年継続したご寄付の申し込みは、「大阪医科大学基金（通称・フレンズ基金）」で承っております。

なにとぞご支援賜りますようお願い申し上げます。

寄付金報告

■ 附属病院の整備事業募金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成25年1月1日から平成25年3月31日までの間の寄付金入金件数は7件、金額は1,960,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々に感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成25年3月31日までの寄付金入金件数は119件、金額は31,000,000円です。

(順不同・敬称略)

大阪医科大学附属病院 栄養部 医療法人旭会 (社団)
倉本 弘三郎 倉本多加子 清家 広明 小林 喜久 匿名1件

■ 教育環境整備事業募金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成25年1月1日から平成25年3月31日までの間の寄付金入金件数は3件、金額は2,100,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの寄付金入金件数は39件、金額は55,960,000円です。

(順不同・敬称略)

大西 用子 山根 則夫 匿名1件

■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業へのご寄付

<寄付金申込者>

平成24年10月1日から平成25年3月31日までの間の寄付金入金件数は1件、金額は50,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成25年3月31日までの寄付金入金件数は44件、金額は5,873,460円です。

(敬称略)

三好 トラキ

■ ご支援をお考えの皆様へ

ご寄付のお手続き方法

1. 大阪医科大学ホームページよりダウンロードした寄付申込書にご記入のうえ、FAXまたはご郵送ください。

●ご郵送先：〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号 ●FAX：072-681-3723

2. 下記口座のいずれかにお振込をお願いいたします。

受取口座名義はいずれも 「学校法人大阪医科大学募金口」	
(1)振込先 三井住友銀行高槻支店 口座番号 普通預金 2161078	(2)振込先 ゆうちょ銀行 ①ゆうちょ銀行から振込む場合 ②ゆうちょ銀行以外の金融機関から振込む場合 口座番号 00940-8-319151 支店名 ○九九(ゼロキュウキュウ)店 口座番号 当座預金 0319151

※本学指定の振込用紙をご利用して三井住友銀行（全国の本支店）またはゆうちょ銀行・郵便局（全国の本支店）でお振込みいただければ、お振込手数料は無料となります。振込用紙は募金推進本部までご請求ください。

3. ご入金のご確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。

(備考) 寄付申込書は、本学ホームページ (<http://www.osaka-med.ac.jp>) の「ご支援のお願い」から、お入り下さい。

寄付金に関する
お問合せ

学校法人大阪医科大学 募金推進本部
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

TEL:072-684-7243(直通) FAX:072-681-3723 E-mail:kikin@art.osaka-med.ac.jp

受付時間／平日9：00～16：30

■主要会議とその主な議題(平成25年2月～4月)

【理事会】

[平成25年2月12日]

—審議事項—

1. 予備費の使用について

—協議事項—

1. 学校法人高槻高等学校との法人合併について
2. 大槻哲彦理事の退任に伴う後任理事の推薦について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会報告
3. 病院関係報告
4. 2013年受験者募集イベント日程について
5. 診療報酬の流動化について

[平成25年3月12日]

—審議事項—

1. 理事の選任について
2. 相談役の再任について
3. 銭高組土地買収について
4. 大学院生にかかる医療費の特別措置について

—協議事項—

1. 平成25年度予算案について
2. 新中期計画(案)について
3. 法人合併について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会報告
3. 学事関係報告
4. 学長選挙について
5. 病院関係報告

[平成25年3月30日](その1)

—報告事項—

1. 平成24年度資金収支決算見込報告書並びに平成24年度消費収支決算見込報告書について

—審議事項—

1. 平成25年度事業計画及び予算の概要について
2. 平成25年度予算書(案)について
3. 新研究科設置について
4. 大阪医科大学大学院看護学研究科教授会規程の制定について

5. 学校法人大阪医科大学寄附行為の一部変更について

6. 大阪医科大学学則の一部改正について

7. 大阪医科大学大学院学則の一部改正について

8. 大阪医科大学大学協議会規程の一部改正について

9. 法人合併協定書について

その他 評議員の任期延長について

—報告事項—

2. 担当理事運営会議報告

[平成25年3月30日](その2)

—審議事項—

1. 平成25年度事業計画及び予算の概要について

2. 平成25年度予算書(案)について

3. 新研究科設置について

4. 学校法人大阪医科大学寄附行為の一部変更について

5. 法人合併協定書について

—報告事項—

1. 学事関係報告
2. 日本私立大学連盟報告
3. 日本私立医科大学協会報告
4. その他

[平成25年4月16日]

—審議事項—

1. 大阪医科大学附属病院特定医療従事条件付奨励金規程の制定について

2. 定年延長について

3. 予備費の使用について

—協議事項—

1. 学校法人大阪医科大学情報システムに関する基本方針(案)について

2. 理事会内教育検証部会について

—報告事項—

1. 日本私立医科大学協会報告

2. 学事関係報告

3. 病院関係報告

4. その他

主要会議報告

【評議員会】

〔平成25年2月12日〕(臨時)

—協議事項—

1. 中央手術棟建築関連の進捗状況について
2. 学校法人大阪薬科大学との法人合併について
3. 学校法人高槻高等学校との法人合併について

—報告事項—

1. 90周年記念事業について
2. 診療報酬の流動化について

〔平成25年3月30日〕

—報告事項—

1. 平成24年度資金収支決算見込報告書並びに平成24年度消費収支決算見込報告書について

—審議事項—

1. 平成25年度事業計画及び予算の概要について
2. 平成25年度予算書(案)について
3. 新研究科設置について
4. 学校法人大阪医科大学寄附行為の一部変更について

5. 法人合併協定書について

—報告事項—

2. 学事関係報告
3. 病院関係報告
4. 看護学部関係報告

【医学部教授会】

〔平成25年2月6日〕(臨時)

—審議事項—

1. 総合医学講座病理学教室担当教授の選考について

—報告事項—

1. 学長報告

〔平成25年2月19日〕

—審議事項—

1. 平成25年度医学部入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 生命科学講座生化学教室担当教授の選考について
4. 予防・社会医学講座衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ教室担当教授の選考について
5. 大阪医科大学特定生物安全管理委員会規程の一部改正について

6. 大阪医科大学微生物等使用実験安全管理規程の一部改正について

7. 大阪医科大学遺伝子組換え生物等の第二種使用等に関する安全管理規程の一部改正について

8. 研究機構長・医学情報処理センター長・学生生活支援センター長の選出について

9. 大阪医科大学学則の一部改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 受託研究審査会報告
5. 特定生物安全管理委員会報告
6. その他

〔平成25年2月23日〕(臨時)

—審議事項—

1. 平成25年度医学部入学試験に関する件
2. 医学部第5学年生の交通事故について
3. 大阪医科大学学長予定者選挙管理委員会公報について

—報告事項—

1. 平成25年度第2学年学科目オリエンテーション実施について

〔平成25年3月1日〕(臨時)

—審議事項—

1. 平成25年度医学部入学試験に関する件

—報告事項—

1. 学長報告

〔平成25年3月6日〕(臨時・合同)

—審議事項—

1. 大阪医科大学学長予定者選挙について

〔平成25年3月15日〕(臨時)

—審議事項—

1. 平成25年度医学部入学試験に関する件
2. 学部学生からの退学願い出について
3. 第1～4学年の進級合否判定について

—報告事項—

1. 学長予定者選挙(再選挙)について

〔平成25年3月19日〕

—審議事項—

1. 平成25年度医学部入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 総合医学講座病理学教室担当教授の選考について
4. 大阪医科大学大学協議会規程の一部改正について
5. 平成25年3月末日で定年退職される教授の名誉教授称号授与に関する件
6. 平成25年3月末日で定年退職される専門教授の功労教授称号授与に関する件
7. 研究機構長・医学情報処理センター長・学生生活支援センター長の選出について
8. 平成25年3月31日で任期満了となる委員会委員の選出について
9. 大阪医科大学学則別表の一部改正について
10. 学部学生の退学願い出について
11. 学部学生の休学願い出について
12. 大学安全対策委員会規程の一部改正について
13. その他

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 倫理委員長報告
5. 受託・共同研究審査結果報告
6. 病院長報告

〔平成25年4月2日〕(臨時)

—審議事項—

1. 平成25年度入学者決定に関する件
2. 本年3月19日教授会での医学情報処理センター長の選出結果について
3. 本年3月19日教授会での委員会委員の選出結果について
4. 本年3月31日付けで教授が退職される教室の臨時主管教授について
5. 医学部学生の休学願い出について
6. その他

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告

〔平成25年4月17日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合医学講座病理学教室担当教授の選考について
3. 生命科学講座生化学教室担当教授の選考について
4. 予防・社会医学講座衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ教室担当教授の選考について
5. 平成24年度医師国家試験結果及び今後の対策について
6. 鈎奨学基金研究助成金審査委員の選出について
7. 大阪医科大学医学部入試実務委員会規程の一部改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 倫理委員会報告
5. 広報・入試部長報告

【医学研究科教授会】

〔平成25年2月6日〕

—審議事項—

1. 新研究科設置準備について
2. 大学院学則の一部改正について
3. 復学願について
4. 学外研修について
5. 平成25年度研究生出願について

—報告事項—

1. 大学学則の一部改正について
2. 平成25年度教育要項について
3. 関西大学工学部との医工連携について

〔平成25年2月19日〕(臨時)

—審議事項—

1. 平成25年度医学研究科入学試験(2月分)及び平成24年度第2回論文提出のための語学試験の可否判定について
2. 平成25年度大阪医科大学大学院医学研究科入学宣誓式の代表宣誓者について

〔平成25年3月6日〕

—審議事項—

1. 平成24年度第2回学位論文審査結果に基づく可(合)否決定について

主要会議報告

2. 仁泉会大阪医科大学支部長賞推薦について
 3. 大学院学則の一部改正について
 4. 平成25年度大学院担当予定教員について
 5. 平成25年度研究生の継続及び新規出願について
 6. 平成25年度大学院医学研究科給付奨学金給付予定者について
 7. 専攻授業科目の変更について
 8. 学外研修許可願について
 9. 平成25年度 ティーチング・アシスタント採用上申について
 10. 平成25年度リサーチ・シスタント採用上申について
 11. 平成25年度 ポスト・ドクター採用上申について
- 報告事項—
1. 平成25年度大学院統合講義について
 2. 平成24年度医学研究科第2回学位記授与式および平成25年度医学研究科入学宣誓式について
 3. その他

[平成25年4月2日]

—審議事項—

1. 平成25年度入学者決定に関する件
 2. 大学院委員長、大学院委員会委員、大学院語学試験委員の選出について
 3. 退学願について
 4. 学外研修許可願について
 5. 平成26年度学位論文審査について
 6. 大学院学位規程細則の一部改正について
 7. 大学院学位規程の一部改正について
- 報告事項—
1. 平成25年度「統合講義」受講配慮について
 2. その他

【大学協議会】

[平成25年2月25日]

—協議事項—

1. 大阪医科大学大学協議会規程の一部改正について
2. 平成25年度大学基準協会の申請の受理及び今後の手続きについて
3. 大阪医科大学学長予定者選挙について
4. 医学部第5学年生の交通事故について
5. 助産師国家試験受験資格希望者の選抜に関する申合せ事項について
6. 看護学部卒業研究に関する規程について

7. その他

[平成25年3月25日]

—協議事項—

1. 看護学部卒業研究に関する規程(案)及び卒業研究に関する倫理審査会細則(案)について
2. 平成25年度大学基準協会への今後の手続きについて

[平成25年4月22日]

—協議事項—

1. 大阪医科大学学長予定者選挙について
2. 平成25年度医学部・看護学部卒業式について
3. 看護学部生の同窓会について
4. その他

【看護学部教授会】

[平成25年2月1日](臨時)

—審議事項—

1. 平成25年度看護学部入学試験に関する件
- 報告事項—
1. 学部卒業論文に関する倫理審査について

[平成25年2月6日](臨時)

—審議事項—

1. 平成25年度看護学部入学試験に関する件
- 報告事項—
1. 教育センター予算購入希望について

[平成25年2月13日]

—審議事項—

1. 非常勤講師の上申について
 2. 大阪医科大学学則の一部変更について
- 報告事項—
1. 海外出張について
 2. 大学協議会報告
 3. 新研究科設置に関する報告
 4. 卒業式の出席について
 5. 平成24年度設置経費(複合機)の購入について
 6. 各種センター報告
 7. その他

〔平成25年2月15日〕(臨時)

—審議事項—

1. 平成25年度看護学部入学試験に関する件

〔平成25年2月20日〕(臨時)

—審議事項—

1. 助産師国家試験選抜希望者の決定について

〔平成25年2月22日〕(臨時)

—審議事項—

1. 大阪医科大学学長選挙について

〔平成25年3月4日〕

—審議事項—

1. 教員人事について

〔平成25年3月13日〕

—審議事項—

1. 非常勤講師の上申について
2. 平成25年度看護学部各種委員会委員について
3. 卒業研究に関する規程(案)及び卒業研究に関する倫理審査細則(案)について
4. 学生の復学について
5. 平成24年度 第2学年 進級判定について
6. 履修規程の一部変更について
7. 実習科目の履修要件の変更について
8. 台北医学大学看護学部と本学部との協定書の締結について
9. 消耗品費(教育センター)の予算執行について
10. 看護学部研究棟の部屋割について
11. 実習再試験の取り扱いについて
12. 平成25年度卒業演習及び総合実習の学生配置について

—報告事項—

1. 台北医学大学看護学部訪問の報告
2. 掲示板設置について
3. 設置経費納品について
4. 医学部兼任教員について
5. 大学協議会報告
6. 看護学研究科設置について
7. 設置に係る履行状況報告について
8. 保育所の建設について
9. マイカーによる通勤調査について
10. 各種センター報告

11. その他

〔平成25年3月21日〕(臨時)

—審議事項—

1. 第2学年学生の退学願について
 2. 看護学部広報委員会委員の選出について
 3. 看護学部卒業研究に関する規程及び細則の再承認について
 4. 倫理委員会での専門部会設置について
- 報告事項—
1. 学長予定者選挙(再選挙)日程について

〔平成25年4月2日〕(臨時)

—審議事項—

1. 平成25年度看護学部入学生の決定について
2. 看護学部卒業研究に関する規程及び細則の再承認について

—報告事項—

1. 評議員会報告
2. 日本看護系大学協議会報告

〔平成25年4月10日〕

—審議事項—

1. 平成25年度大阪医科大学入学時特待生候補者の決定について
2. 平成25年度大阪医科大学看護学部特別奨学金候補者の決定について
3. 看護学部年間計画について
4. 消耗品(教育センター)の予算執行について
5. 卒業見込証明書の発行について

—報告事項—

1. 平成25年度看護学部予算書について
2. 看護学部1名定員増について
3. 看護学研究科進捗状況について
4. 看護学部PA会総会と保護者説明会(6月15日実施)について
5. 各種センター報告
6. その他

〔平成25年4月18日〕(臨時)

—審議事項—

1. 学長選挙について

—報告事項—

1. 予算流用について

■ 同情するなら当直に来てくれ！

臨床研修医 大里 真之輔

はじめにこのタイトルは佐渡市立相川病院院長・吉井章先生の偽りのない主訴であり、今回の文章に書く内容は「往復の交通費も出すから当直に来てくれ」だけで良いと仰せ付かったため、その責務を履行することで今回の地域研修はようやく完結を迎えるのであります。地域研修先を選ぶに当たり多数派とは異なる経験を積もうと思い、提示された候補の中から誰も選んでいない佐渡の病院を選びました。また最も厳しい環境でこそ観光旅行などでは触れにくい、その土地の核心に迫れるのではないかと思います、敢えて寒さの厳しい2月にしました。



佐渡市立相川病院の前身は隣にある佐渡金山の鉱山病院であり、閉山した今は病床数約60床の療養型病院として機能しています。救急告示病院ですが常勤医は2名しかおらず、当直も主に常勤医が担当しています。そのためタイトルのような十数年前の名ゼリフが思い出される訳であります。

島にはやはり高齢者の割合が高く、疾患としては高血圧、心不全、COPD、糖尿病などの慢性疾患が多くなっています。研修業務は病棟・外来患者の診察、特別養護老人ホームの回診、往診、訪問診療などで、介護認定審査会も院長のご厚意で特別に見学させて頂きました。患者さんの病院へのアクセスは主にバスですが、吹雪の日などは病院、診療所に行くこと自体命がけになりうるため、そのような場合には往診で対応することもあります。

さて、佐渡の良いところはやはりその自然でしょう。釣りやアウトドアが好きな人、グルメな人には絶好の島だと思います。佐渡は寒流と暖流の両方が流れているため、魚は様々な種類のものが釣れるそうです。海岸線の集落はそのそれぞれが漁港になっていることから、島周囲の回遊魚の豊富さが伺えます。また島には標高1,170mの金北山（きんぼくさん）をがそびえ立ち、その雪解け水は稲穂を育て、おいしい米、酒が生まれる源となっています。

佐渡はもちろん雪が降りますが、相川地区は海に近いことに加え、強風で雪が飛ばされることもあって積もっても10cm程度です。ちなみに両津地区は除雪車が必要なほど積もるそうです。日が沈むと外は寒さ、強風、波の打ち付ける音、暗闇、人気のなさが重なりかなりの恐怖を味わいます。夜、空に雲がなければ、その恐怖の中に星空の綺麗さと、ささやかながら道を照ら



してくれる月の存在の大きさを感じずにはいられません。海岸には時化（しけ）ていればかつての東映映画のオープニングのような激しい波が轟音とともに打ち付けますが、晴れて風も穏やかな日には海はひっそりと静まり返っています。このような自然の表情の豊かさ、佐渡の大きな魅力の一つでしょう。

皆様も佐渡市立相川病院で当直を行いつつ、都市部では味わえない、輝くような離島ライフをぜひ体験してみてくださいはいかがでしょうか。

第9回 臨床研修指導医養成講習会開催

臨床研修における指導体制の充実を目的として今年度も臨床研修指導医養成講習会を開催しました。チーフディレクターに聖路加国際病院の福井次矢病院長、チーフタスクフォースには高知医療再生機構の倉本秋理事長、コンサルタントとして九州大学医学教育学吉田素文教授といった新医師臨床研修制度を含む医学教育の中心におられる先生方の企画・運営により執り行いました。従来からのカリキュラムプランニングを中心としたプログラムにコーチングやロールプレイを取り入れたユニークな構成で進められ、16時間すべてのプログラムを修得された学内及び学外から参加された39名の先生方には本院および厚生労働省医政局連名による修了証書が授与されました。

1. 開催日時 平成25年2月23日(土)午前9時30分～24日(日)午後5時00分
(実質的な講習時間 16時間)
2. 場 所 新講義実習棟7階
3. 運営組織 (実施担当者)

研修会主催責任者	黒岩 敏彦		タスクフォース	寺崎 文生
チーフディレクター	福井 次矢	聖路加国際病院 病院長	〃	西本 泰久
コ・ディレクター	河野 公一		〃	田中 源重
〃	上田 晃一		〃	白田 寛
チーフタスクフォース	倉本 秋	高知医療再生機構 理事長	〃	林 道廣
コンサルタント	吉田 素文	九州大学 医学教育学教授	〃	近藤 敬一郎

4. 参加受講者 (39名)

城戸 晴規	中野 祥子	大関 道薫	尾本 遥	岩木 一貴
高山 文美	中村 敬彦	服部 一生	坂根 和志	岡本 祐典
田崎 龍之介	横山 亮	島本 福太郎	野村 昇平	三原 良介
藤岡 大也	鱒渕 真介	井上 敬介	森本 賢治	白数 明彦
田中 宏治	紀 貴之	宮崎 信一郎	稲元 輝生	中川 暁雄
小山 光博	井上 洋人	上原 秀明	神田 直樹	福田 真樹子
上田 英一郎	北 輝夫	廣川 文鋭	小田 明彦	吉田 謙
佐伯 彰夫	濱畑 哲造	西田 吉充		白木 正裕



大学安全対策室 訃報

■大学安全対策室からのお知らせ

このたび、研究室（各教室）等における各種薬品類の管理体制を整備・改善する「薬品管理小委員会」と廃棄物に対する対策を検討する「環境管理小委員会」が統合され、大学研究環境を総合的に検討・整備する「大学研究環境管理小委員会」が設置されました。大学研究環境における総合的な安全対策が検討される予定ですので、引き続きご協力のほどお願い申し上げます。

平成25年4月に「大阪府化学物質管理制度」にともなう調査を実施いたしました。また、平成25年5月には化学物質等の管理について「管理責任者」・「保管責任者」及び廃棄物の取扱いについて「管理責任者」・「取扱責任者」を選出していただきました。その際は関係者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

本年度におきましては、各教室等における不要試薬の一括廃棄を行い、また、総合研究棟、講義実習棟、第2研究館に緊急シャワーを設置し、化学物質等の取扱いにおける安全性の向上をはかる予定です。

* 平成25年4月より実施した研修会をweb上で動画を視聴することが可能となりましたのでご利用ください。

URL

なお実施した研修会のDVDや安全に関する書籍の貸出もいたしますのでご利用ください。

【連絡先】

大学安全対策室（総合研究棟1階）内線3404、3405

E-mail sps000@art.osaka-med.ac.jp

URL www.osaka-med.ac.jp/deps/sps/index.html

(学内限定ですが、上記URLよりご意見をお寄せいただける入力フォームを用意しております。皆様のご意見をお待ちしております。)

大学安全対策委員会
大学研究環境管理小委員会設置について
大学研究環境管理小委員会
「大阪府化学物質管理制度」にともなう調査実施
化学物質等の管理についての「管理責任者」・「保管責任者」選出
廃棄物の取扱いについての「廃棄物管理責任者」・「取扱責任者」選出
不要試薬一括廃棄
緊急シャワー設置



訃報

本学名誉教授（内科学）の大柴三郎先生（87歳）が、去る平成25年3月21日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



■ 平成24年度 第2回近畿4私立医科大学病院医療安全連絡会議

日 時：平成25年2月27日（水）午後14時30分～17時00分
 場 所：新講義実習棟7階 P714、715、704、705、706、707、708

標記の「近畿4私立医科大学病院医療安全連絡会議」は、近畿の兵庫医科大学病院、関西医科大学附属枚方病院、近畿大学医学部附属病院と当院の4大学病院が幹事病院を決定して、年2回開催（1回目は5月30日）する医療安全に関する連絡会議です。平成24年度は本院が幹事病院でした。出席者は別添の通りで、本院からも黒岩病院長以下12名が出席し、合計42名の出席となった。

黒岩病院長の開会挨拶、樋口部長の挨拶に続き、村尾医療安全対策室室長の司会により、全体会議が開催された。全体会議のテーマとしては、「リスクマネージャーの役割を再確認する」と「近畿私立大学病院医療安全連絡会議の運営を考える」であった。

その後、「医療安全」「感染対策」「医薬品」「医療機器」「事務」の各分科会に分かれ、各病院が事前に持ち寄ったテーマで活発な意見交換が行われた。何時も感じる事ではあるが、各分科会とも議論内容が非常に濃く、時間が足りなくなるのが常である。

分科会終了後、休憩をはさんで各分科会で議論された内容が報告された。報告者は幹事病院である当院の各責任者であり、詳細について整理された内容で報告された。

最後に樋口推進部長の閉会の挨拶があり、その後議論尽くせなかった事柄については、場所を移動して引き続き行われた。平成25年度の幹事病院は近畿大学医学部附属病院である。



◆連絡会議出席者名簿◆

(敬称略)

近畿大学医学部附属病院		
所属	職名	氏名
安全管理部 教授	医療安全対策室長	辰巳 陽一
安全管理部 教授	感染対策室長	吉田 耕一郎
安全管理部 准教授	褥瘡対策室長	大磯 直毅
医療安全対策室	医療安全管理専任者	山田 明子
看護部	主任	岩本 理恵
臨床工学部	医療機器安全管理担当者	高田 裕
薬剤部	医薬品安全管理担当者	島元 健次
病院事務部 医療安全対策課	課長補佐	濱田 一裕
病院事務部 医療安全対策課	課長補佐	後藤 幸夫

医療安全対策室

兵庫医科大学病院		
所属	職名	氏名
医療安全管理部	部長	阪上 雅史
	副部長	中 聡夫
	統括セイフティマネージャー	角谷 智子
	専従セイフティマネージャー	宮崎 美貴子
感染制御部	講師	中島 一彦
	感染対策認定看護師	一木 薫
	専従薬剤師	植田 貴史
	臨床検査技師	和田 恭直
薬剤部	医薬品安全管理責任者	木村 健
病院事務部	事務部次長	北江 正幸
病院事務部管理課	主事	矢部 善雄
	参事	陶山 賢一
関西医科大学附属枚方病院		
所属	職名	氏名
医療安全管理部	副部長	宮崎 浩彰
	専従医療安全管理者	齋藤 ひろみ
	専任医療安全管理者	川瀬 泰裕
	部員	中島 秀康
事務部医事課	係長	久保 忠昭
医用工学センター	医療機器安全管理者	山口 睦人
感染制御部	部長	宮良 高維
	感染管理認定看護師	大石 努
大阪医科大学附属病院		
所属	職名	氏名
病院事務部	病院長	黒岩 敏彦
	事務部長代理	木村 正士
医療安全推進部 医療安全対策室	部長	樋口 和秀
	室長	村尾 仁
	医療安全管理者	松上 美由紀
	課長	角江 司
感染対策室	室長	浮村 聡
	副室長	大井 幸昌
	感染管理認定看護師	川西 史子
病院薬剤部	医薬品安全管理責任者	西原 雅美
臨床工学室	医療機器安全管理責任者	岩崎 孝敏
病院事務部 庶務二課	課長	岩橋 朗

■ 第35回事例検討会

『ロールプレイ等で振り返る今年(平成25年)の重大事例』

日 時 : 平成25年3月5日(火)午後5時～6時
 場 所 : 臨床第一講堂
 演 題 : ①紙芝居『KCL原液の末梢ルートからの投与』
 ②動画『寸前で止まった輸血誤投与』
 ③ロールプレイ『同姓同名患者の誤認』
 出席者 : 206名

今回、医療安全対策室として初めての試みで、平成24年度に起こった重大事例をオムニバス形式で夫々、「紙芝居」・「動画」・「ロールプレイ」という形で開催いたしました。①事例目の紙芝居は医療安全対策室員のナレーションで行い、②事例目の動画は中央手術部のスタッフの大掛かりな演出で行われました。③事例目のロールプレイは、医療安全対策室員を中心に看護部からも協力を得て、和やかな中にも緊迫感を漂わせながら、シーンを展開していきました。3事例とも当院で発生した事例であり、今後二度と起きることが無いようにとの思いからのプレゼンでした。①事例目と③事例目に付いては村尾室長の方から「RCA」が施され、出席者に大変分かりやすい内容となった。

終了後のアンケートでは、3事例とも非常に解りやすく構成されており、これからも常にこの様な形で事例検討会を実施して欲しいとの意見が殆どであった。

しかしながら、準備に時間がかかるのと「演出しやすい事例」が必要なので、全て今回のような形で行う事は難しいと考えられる。

平成24年度重大3事例

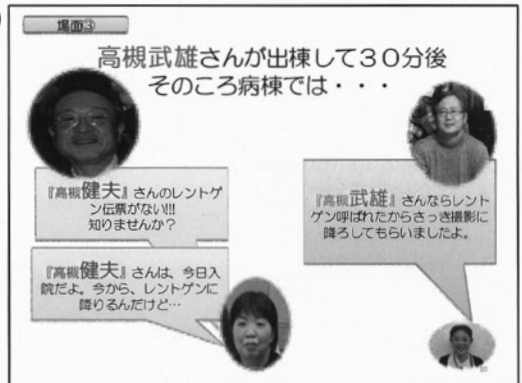
①



②



③



感染対策室

■平成24年度の北摂四医師会感染対策ネットワーク報告

感染対策室 感染管理認定看護師 川西 史子

平成24年度の診療報酬の改訂により院内における感染防止対策の評価として感染防止対策加算1：入院初日400点、加算2：100点、感染防止対策地域連携加算：入院初日100点と入院患者1人あたり合計500点(5,000円)が算定されることになりました。これらの加算の算定要件を満たすために加算1を算定する施設と加算2を算定する施設が互いに連携を取ることが求められ、感染対策室では平成24年3月に北摂四医師会の協力得て北摂四医師会に属する医療機関が相互の連携を通し、感染症診療および感染防止対策の推進に貢献することを目的とした「北摂四医師会感染対策ネットワーク」を立ち上げ、4月よりネットワーク内の中心的役割を担い活動してまいりました。^{※図}

平成24年度 北摂四医師会 感染対策ネットワーク 活動報告											
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成25年2月
全体合同会議	3/22 立ち上げ会議				7/12 第1回合同カンファレンス						2/22 第2回合同カンファレンス
取り組み		・ネットワーク会則 ・アウトブレイク対応	・ラウンドチェックリスト配布 ・協定書		・環境ラウンド ・手指衛生について				・ノロウイルス、インフルエンザウイルス リーフレット配布 ・感染性胃腸炎、インフルエンザポスター配布		各1加算施設取り組み発表
1-2連携会議			5/14 第1回連携会議		7/12 第2回連携会議			10/4 第3回連携会議			2/22 第4回連携会議
取り組み		感染対策アンケート配布・集計	アンケート結果より取り組み事項検討					・手指消毒剤使用量/チェック表配布 ・感染対策実施状況確認	手指消毒剤の使用量チェック開始		・手指消毒剤使用量結果 ・感染対策実施状況確認
ラウンド				6/14 新生病院から本院へのラウンド		9/13 本院から愛仁会リハ病院へのラウンド		10/23 関西医大から本院へのラウンド			2/5 本院から関西医大へのラウンド
研修会等					7/2 三島感染症研究会				11/10 市民公開講座		
検査技師会				耐性菌等の検出状況、感染症患者の発生状況把握のためサーベイランス開始 MRSA,MDRP,MDRA,VRE データ収集							サーベイランス結果発表
薬剤師会				抗菌薬使用量調査、抗菌薬適正使用マニュアルの作成、ラウンドにおける薬剤師の関与についてアンケート調査、データ収集							実施状況結果発表



今年度は初年度ということで、連携各施設の院内感染防止対策状況の把握から始め、各々の施設の現状に沿った感染防止対策の推進と、ラウンド、ネットワーク全体での取り組みとしてサーベイランスの実施や手指衛生の使用量チェックなどを実施しました。平成25年2月22日には合同カンファレンスを開催し、加算1算定病院の活動報告や医師・看護師部会、薬剤師部会、検査技師部会からのサーベイランス結果報告等の活動報告を実施しました。来年度も地域の施設と連携を取りながら、院内だけでなく地域においても感染予防対策の推進に努めたいと考えております。

保健管理室からのお知らせ

■ 4種感染症抗体検査、ワクチン接種について

本学では感染症対策の一環として、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体の有無の確認、抗体がない場合のワクチン接種を強く推奨しています。医療従事者がこれらの感染症に罹患した場合、周囲の患者や医療従事者への感染源になることがあります。したがって学生、教職員は免疫を獲得した上で実習・勤務に当たることが重要です。

異なる種類のワクチンを接種する場合の注意

異なったワクチンを接種する場合、各々のワクチンに定められた接種間隔を守るよう注意して下さい。また本学が実施するワクチン接種（B型肝炎、インフルエンザ）は日時が決まっていますので、他のワクチン接種と重なると接種ができなくなります。ご注意ください。

- ①生ワクチン（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘など）は、次の接種を行う日までの間隔は27日間以上
- ②不活化ワクチン（B型肝炎、インフルエンザ、子宮頸がんなど）は、次の接種を行う日までの間隔は6日間以上

■ B型肝炎ワクチン接種のご案内

下記の要領でB型肝炎ワクチン接種を実施します。職業感染から身を守るためにもB型肝炎抗体を獲得することを強くお勧めします。

1回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種

【実施日時】平成25年6月6日（木）、7日（金） 15：30～16：30

【場 所】総合研究棟1階 保健管理室

【対 象 者】4月に抗体検査を受けてワクチン接種を申込された方

（但し昨年度3回のワクチン接種を受けられた方は対象外）となります。

2回目B型肝炎ワクチン接種、追加ワクチン接種者の抗体確認検査

【実施日時】平成25年7月4日（木）、5日（金） ワクチン接種：15：30～16：30

抗 体 検 査：8：45～10：00、15：00～16：00

【場 所】総合研究棟1階 保健管理室

【対 象 者】6月に1回目B型ワクチン接種を受けた方

平成25年度B型肝炎ワクチン接種予定

		6/6（木） 6/7（金）	7/4（木） 7/5（金）	12/5（木） 12/6（金）	平成26年 1/15（水） 1/16（木）
新規	初めて受ける人 抗体を獲得したことがない人	1回目 ワクチン接種	2回目 ワクチン接種	3回目 ワクチン接種	抗体確認検査
追加	以前ワクチン接種で一度抗体を 獲得した人	追加 ワクチン接種	抗体確認検査		

保健管理室からのお知らせ 入学試験・国家試験状況 平成24年度病院患者動態

■ カウンセリングのご案内 ～一人で抱え込まないで、早めに相談しましょう～

新年度に入り、異動、入職、入学など環境が大きく変わる時期です。新しい環境、生活に慣れるためにストレスが高まりやすく、疲れがとれない、気持ちが落ち込みやすい・・・など心身ともに疲労状態となります。この状態が続くと、中にはうつ病など心の病気に陥ってしまうこともあります。身体疾患と同様にこころの不調も早めの対処が重要ですので、“しんどいな”と感じたら上司や先輩、友達に相談しましょう。また本学の保健管理室には臨床心理士が常勤し相談業務を行っていますので、気軽にご利用下さい。

なお相談内容の秘密は厳守しますので、ご安心してお越し下さい。

【利用方法】

- ① 保健管理室（研究棟1階）に直接来室して下さい。あらかじめ日時を予約することもできます。
- ② 電話、メールでの問い合わせ、予約も受付けています。
- ③ 受付時間：月～金曜日 9：00～17：00（予約有の場合、17：00以降でも可）
- ④ 問い合わせ先：072-684-6560（カウンセリング直通電話）E-mail：hokekan@poh.osaka-med.ac.jp

入学試験・国家試験状況

■平成25年度 入学試験状況

	志願者数(人)	受験者数(人)	入学者数(人)
医学部医学科	3,404	3,062	112
大学院医学研究科	53	52	52
看護学部看護学科	923	909	92



■国家試験状況

		受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	全国平均(%)
第107回 医師国家試験	総数	111	95	85.6	89.8
	新卒	104	91	87.5	93.0
	既卒	7	4	57.1	59.3

平成24年度 病院患者動態

項目		単位	平成24年度	平成23年度	平成22年度	対前年比
入院	延入院患者数	(人)	259,840	254,488	255,107.0	5,352.0
	(1日平均患者数)	(人)	711.9	695.3	698.9	16.6
	(新入院患者数)	(人)	16,765	16,073	15,611.0	692.0
	(病床稼働率(延))	(%)	86.4	84.9	85.5	1.5
	(平均在院日数)	(日)	14.5	14.8	15.4	-0.3
外来	延外来患者数	(人)	534,084	499,320	539,642.0	34,764.0
	(1日平均患者数)	(人)	1,985.4	1,997.3	2,006.1	11.9
	(初診患者数)	(人)	47,745	46,700	53,040.0	1045.0
	(1日平均初診患者数)	(人)	177.5	172.3	197.1	5.2

平成25年度採用 臨床研修医(臨床研修歯科医師)

臨床研修医 46名

臨床研修歯科医師 3名

平成25年度LDセンター活動予定

2013年度 研修・講演会予定表

月 日	曜日	時間	講演内容
4月27日	土	午後	保育における発達障害
5月10日	金	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導①
5月11日	土	午前	気になる子どもへの教室でできる支援と配慮のコツ
5月11日	土	午後	発達障害の子どもに見られる視覚能力の問題とその指導 ～基礎編～
5月17日	金	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導②
5月24日	金	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導③
6月8日	土	午前	ライフサイクルにあわせた公的機関の役割とその利用
6月8日	土	午後	発達障害のある子どもの感覚と運動の課題
6月14日	金	午前	幼児期のソーシャルスキル指導①
6月15日	土	午後	発達障害の子どもにみられる視覚能力の問題とその指導 ～実践編1～
6月21日	金	午前	幼児期のソーシャルスキル指導②
6月28日	金	午前	幼児期のソーシャルスキル指導③
6月29日	土	終日	漢字学習につまずく子どもへの指導
7月2日	火	午前	幼児期に経験する体の動きは学習や社会性の土台
7月13日	土	午前	幼児期・低学年の子どもとのよいかかり方へペアレントトレーニングの手法を学ぼう～
7月13日	土	午後	発達障害の子どもにみられる視覚能力の問題とその指導 ～実践編2～
8月31日	土	午後	発達障害のある子どもに寄り添う ～保育園幼稚園での行事への対応～
9月6日	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導①
9月14日	土	午後	ワーキングメモリーと学習の関係
9月20日	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導②
9月21日	土	午前	幼児期・学童期に子どもはどのような言語・コミュニケーションの発達をするのか
9月21日	土	午後	学童期の言語・コミュニケーションの評価
9月27日	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導③
9月30日	月	午前	子どもの「見る」力「聞く」力の理解とその指導
10月8日	火	午前	子どもが取り組む手を使う作業に大人はどう援助するか
10月26日	土	午後	算数障害の理解と指導 ～算数のつまずきをどう捉えて指導するか～
10月31日	木	午前	子どもの「読む」力「書く」力の理解とその指導
11月16日	土	午前	発達障害で使う用語の理解：新しい定義はどう変わったか
11月16日	土	午後	タブレットPCを使って教材を作ろう
11月29日	金	午前	数える、くらべる
11月30日	土	終日	視機能ワークショップ
12月8日	日	午後	A S A 旭出式社会生活適応検査を使って
12月14日	土	午後	姿勢の保持や運動は学習とどう関係するか
1月10日	金	午前	幼児期低学年のS S T①
1月24日	金	午前	幼児期低学年のS S T②
1月25日	土	午後	幼児期のことばの発達と指導
2月7日	金	午前	幼児期低学年のS S T③
2月8日	土	午後	ダウン症、知的障害のある人の自立をめざして～幼児期・学童期から何をすればよいか～
2月15日	土	午後	学童期から青年期のソーシャルスキル指導
2月15日	土	終日	視機能ワークショップ
2月22日	土	終日	読み書きの指導研修
3月1日	土	午後	心理師資格と発達障害の評価の行方
3月15日	土	午前	発達障害と精神症状
3月15日	土	午後	DN-CAS検査結果の解釈と結果にもとづく指導について

行事日程 俳句

■主な行事日程(平成25年6月～8月)

6月1日(土)	創立記念日	7月1日(月)	病院長・副院長会議
3日(月)	永年勤続表彰式 病院長・副院長会議	3日(水)	診療科長会 医学研究科教授会
5日(水)	診療科長会 医学研究科教授会	6日(土)	歴史資料館市民講座
8日(土)	新入生歓迎会	9日(火)	理事会
9日(日)	『医師によるこどもたちのための医学フォーラム』大阪会場	10日(水)	看護学部教授会
11日(火)	理事会	17日(水)	医学部教授会
12日(水)	看護学部教授会	22日(月)	大学協議会
15日(土)	平成25年度第3回市民公開講座	28日(日)	2013大阪医科大学オープンキャンパス-第1回-
19日(水)	医学部教授会	29日(月)	医学部夏期休業(～8月25日まで)
23日(日)	『医師によるこどもたちのための医学フォーラム』東京会場	8月5日(月)	病院長・副院長会議
24日(月)	大学協議会	6日(火)	理事会
		7日(水)	診療科長会
		25日(日)	2013大阪医科大学オープンキャンパス-第2回-
		26日(月)	大学協議会

◆大阪医科大学俳句会(二・三・四月)

ぶだう酒もパンも生き物復活祭	山崎隆司
テント地の黄色い手提春浅し	同
待人の立春の橋渡りくる	中川一成
二重丸つけし予定や日脚伸び	同
風花や子の心拍の戻り来し	根本慎太郎
姿なき鬼に射る矢や大雛の儀	吉田孝江
夕刊の桜だよりを切るならひ	同
三川を結ぶ快晴揚雲雀	飯塚久子
花吹雪戻らぬ君に三井の鐘	同
勝越しの千秋楽や日脚伸び	宮脇芳美
掌上に転ぶ土鈴の難かな	同
揚雲雀母校はいまも山を背に	寺田千代子
たんぽぽや車輛の下の点検夫	同
さくらさくら花より高き天守閣	羽根美恵子
湖北まだ睡の中や坐禅草	谷口文子
隧道がつなぐ温泉のまち揚雲雀	同

大阪医科大学 お医者さんのたまご講座
**医師による子どもたちのための
 医学フォーラム**

第1回 輸血の今と未来・医師のしごと

小学生、中学生、高校生のみなさんのために大阪医科大学がフォーラムを開きます。
 第1回は、病院や大学の研究室の医師が、医療現場での輸血や、輸血の最新研究、
 また、自身が医師になったキッカケや医師になるまで、
 医師というしごとの喜びをわかりやすくお話します。

2013年 **6月9日** 日
13:00~16:30 開場は
 12:30から
〈大阪〉エルセラーンホール
 (ホテルエルセラーン大阪 5F)

定員: **350名** ◎参加無料
 エルセラーンホールへのアクセス



地下鉄四つ橋線
 「西梅田駅」より徒歩5分
 JR東西線
 「北新地駅」より徒歩5分
 JR線
 「大阪駅」より徒歩10分

大阪市北区堂島1-5-25
 Tel. 06-6347-1484

6月23日 日
13:00~16:30 開場は
 12:30から
〈東京〉イイノホール

定員: **500名** ◎参加無料
 イイノホールへのアクセス



東京メロ
 丸の内線・日比谷線・千代田線
 「霞ヶ関駅」C3出口より徒歩1分
 東京メロ 銀座線
 「虎ノ門駅」9番出口より徒歩3分
 東京メロ 有楽町線
 「桜田門駅」4番出口より徒歩10分
 JR山手線・京浜東北線・東海道線・
 横須賀線・都営地下鉄浅草線、
 ゆりかもめ「新橋駅」より徒歩10分
 都営地下鉄 三田線
 「内幸町駅」A6出口
 日比谷シティ経由で直結

〒100-0011 東京都千代田区西幸2-1-1
 新野ビル4F TEL. 03-3506-3251

プログラム

第1部 講演

「心臓外科の手術って?!」

講師/根本 慎太郎氏 (大阪医科大学 胸部外科学 准教授)

「病院と輸血」

講師/河野 武弘氏 (大阪医科大学 輸血室 准教授)

「未来の輸血-iPS細胞による血小板の作成-」

講師/木村 貴文氏 (京都大学 iPS細胞研究所基盤技術研究部門 教授)

第2部 パネルディスカッション

「医師のしごと」

出演/上記講師3名

進行/大槻 勝紀氏 (大阪医科大学 解剖学 教授)

【事前申込制】

応募者多数の場合抽選

申し込みはWEBで

<http://www.m-forum.net>

保護者の方、先生方もご参加ください。

【主催】大阪医科大学 【後援】朝日新聞社 日本赤十字社 【企画・運営】医学フォーラム事務局

大阪医科大学

● 大阪医科大学に「高山ニャ近」が誕生しました。 ●

広報・入試部長 大槻 勝紀

「高山ニャ近」は、大学紹介のDVDに登場させるキャラクターとして誕生しました。幅広い年齢層に親しまれるよう、ジャカジャカジャンケンで一世風靡したCGキャラクター「コニーちゃん」やテレビゲーム「ケロケロキング」などで有名なイラストレーター・きはらようすけ氏に制作を依頼しました。現在は、オープンキャンパスなどイベント参加者への配布用として「高山ニャ近キャラクターシール」を作成した他、40cmほどのぬいぐるみを制作し、ご希望の部署には貸し出しを行ないますので、お気軽にご相談下さい。今は附属病院にて子どもたちに親しまれております。

広報・入試部では、今後、皆様にも広くご活用いただけるよう、ニャ近オリジナルグッズの制作など幅広い展開を行なっていきたいと考えております。これまでに制作した「大阪医科大学限定キューピー」をはじめとする数々の大学オリジナルグッズとともに、皆様に親しんで頂ければ幸いです。

<高山ニャ近プロフィール>

そのむかし、高槻城主であった高山右近に飼われていたらしいネコ。長い年月を経て妖精となり、いまは大阪医科大学のキャンパスで暮らしている。



◇きはらようすけ

デジタルクリエイター。あみぐるみクリエイター。

「ウクレレマン」やポンキッキーズの「ゴー！ゴー！コニーちゃん！」

でブレイク！その後、「ケロケロキング」(PS)

「ケロケロキングDX」(GameCube)「ケロケロキングスーパーDX」(PS2)

「ケロケロ7」(DS)などのゲームを作る。

ある日、あみぐるみ作りに目覚め、あみぐるみを使ったアニメーションの

制作を開始！あみぐるみのウクレレデュオU900(ユーキューヒャク)

をデビューさせるとYouTubeを通じて世界中から注目される。

4枚のCD+DVDをリリース。現在ユルユルと快進撃中

● 病院ボランティア活動のご紹介 ●

病院ボランティアグループ「ふれあい」活動中！

【エコキャップボランティア】

本院では平成21年3月から、「エコキャップ運動」に参加しております。患者さま、本学スタッフ、大阪医科大学学生の皆様の善意と協力により、大変多くのキャップが集まりました。しかし洗浄やシール剥がしが、職員では追いつかなく困っていました。

そんな時、病院ボランティアグループ「ふれあい」からキャップの整理の手伝いをと声をかけていただきました。現在では、集まったキャップはふれあいスタッフにより、きれいに整理していただいています。

回収されたキャップは業者に引き取っていただくと、収益はポリオワクチンの購入に当てられます。また、キャップは再生されボールペンやうちわ、プランターなどに生まれ変わり、資源の再利用とCO₂の削減にも貢献しています。

おかげさまで、本院からは、平成25年1月末まで累計17,586,000個（ワクチン2,198人分）を届けることができました。

ふれあいスタッフは社会貢献の一翼を担っています。今後も、この活動にご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



【季節の飾りボランティア】



【お正月の作品です】



【3月の飾りと絵手紙】

連絡先：大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター 病院ボランティア担当 内線2515

表紙絵：春の山野草（カラスノエンドウ・スマイル）

空き地、畑、道端、日当たりのよいところであれば、どこにでも節操なく生えている。田舎育ちの私にはビービー豆のほうが親しみを感じる。秋に芽生え、春になると急激に伸び、紅紫の花を付ける。花が終わると、豆ができる。小さな花なので、気を付けないと踏みつけてしまいそうな野路スマイル。同じスマイル属、その種類たくさん。花の色、葉の形状に違いがある。
名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱について：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い本学では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第96号

発行年月 平成25年5月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>